デジタルカメラ

μ-10 DIGITAL
μ-20 DIGITAL

取扱説明書

- このたびは、オリンパス製品をお買い上げくださいまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、大切な撮影（海外旅行など）の前には試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。
- 本書は μ-20 DIGITAL と μ-10 DIGITAL の 2 機種の取扱説明書です。特に記載の区別がない限り 2 機種に共通の説明になっています。
- 取扱説明書で使用している液晶画面やカメラのイラストは、実際の製品とは異なる場合があります。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げくださいまして、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。
また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止します。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一の損害、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF」です。

INDEX

もくじ

1 準備 13

2 使い方早わかりガイド 38

3 メニューとタブのしくみ　44

4 撮影の基本　52

5 撮影の応用　70

6 再生 88

7 カメラの便利機能 106

8 プリント予約 116

9 その他 122

ご使用の前に、この内容をよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

● **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

● **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で発光させない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

● **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
  - 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
  - 電池や xD ピクチャーカードなどの小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
  - 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
  - カメラの動作部でけがをする。

● **カメラのファインダで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。

● **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、専用のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

● **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。

● **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
● **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
● **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

● **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
● **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。また充電器やACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
● **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
● **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。また、充電器やAC アダプタを布などで覆った状態で使用しないでください。熱が発生し、火災の原因になります。
● **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラまたは電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また専用のAC アダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のAC アダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
● **カメラの外装の金属部分に、長時間触れない。**長時間お使いになると、カメラの温度が高くなります。金属部分に皮膚が触れたまま長時間使用を続けると、低温やけどを起こすおそれがあります。
低温下にさらされていると、カメラの外装も低温になります。皮膚が貼り付いてけがをする場合があります。低温やけどや傷害を防ぐため、できるだけ素手で扱わず手袋などをご使用ください。
● **充電器や AC アダプタのコードを傷つけない。**充電器や AC アダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ずプラグを持って、抜き差しを行ってください。以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
- 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
- 充電器やAC アダプタのコードに傷、断線、またはプラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

● 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所

● カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。

● レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD の褪色・焼きつきを起こすことがあります。

● 寒い戸外から暖かい室内に入るなど急激に温度が変わったときは、カメラ内部で結露する場合があります。ビニール袋などに入れてカメラを室内の温度になじませてからご使用ください。

● 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。

● 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。

● 本体の電気接点部には手を触れないでください。

● レンズに無理な力を加えないでください

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守り下さい。

⚠ 危険

- 電池は、専用の当社製リチウムイオン電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用•放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、内容物の飛散の原因になり危険です。
- 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
- 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

- 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
- 専用の充電器で指定のリチウムイオン電池以外の電池を充電しないでください。火災やけがのおそれがあります。
- 所定の充電時間を超えても電池の充電が完了しない場合は、充電を中止してください。
- リチウムイオン電池の外装にキズや破損のあるものは使用しないでください。
- 液漏れや、変色、変形その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。
- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。

- 当社製リチウムイオン電池は、当社デジタルカメラ専用です。使用できる機種については、カメラの取扱説明書でご確認ください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の電池を用意することをおすすめします。
- **ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。充電式電池を捨てる際には＋－端子をテープで絶縁してから、最寄りの充電式電池リサイクル協力店にお持ちください。**

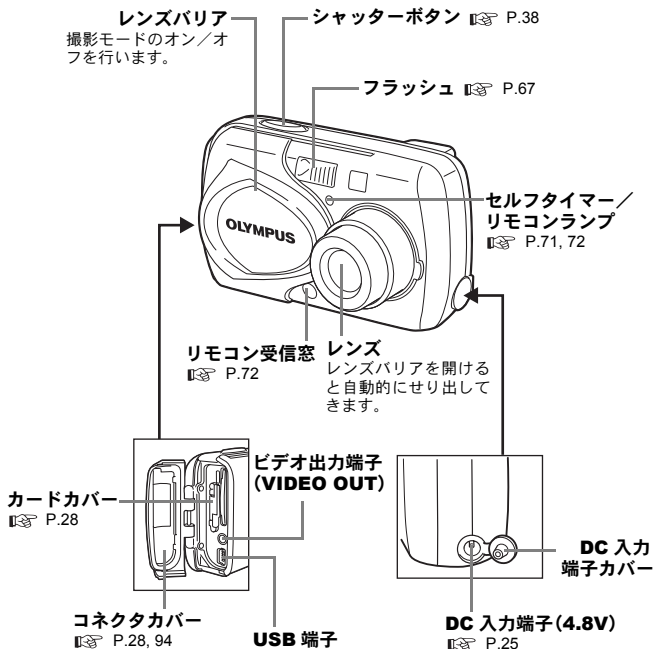
液晶モニタについて

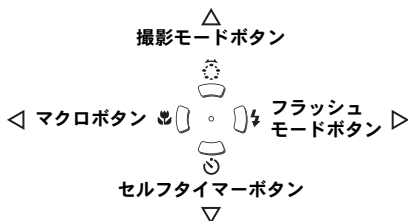
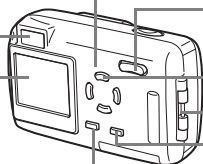
本製品は液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

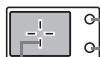
- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見えることがありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めのとき、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがって液晶モニタは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下した液晶モニタは、常温に戻ると回復します。
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

各部の名称

カメラ

レンズバリア
撮影モードのオン／オフを行います。
シャッターボタン P.38
フラッシュ P.67
セルフタイマー／リモコンランプ
P.71, 72
OLYMPUS
リモコン受信窓
P.72
レンズ
レンズバリアを開けると自動的にせり出してきます。
ビデオ出力端子（VIDEO OUT）
カードカバー
P.28
コネクタカバー
P.28, 94
USB 端子
DC 入力端子カバー
DC 入力端子（4.8V）
P.25

十字ボタン

十字ボタンにはそれぞれの機能があります。その他に方向キーとしても使用します。十字ボタンのどの方向キーを押すかを △、▽、◁、▷ マークで示しています。

ファインダ ☞ P.56
ズームボタン(W/T ▦ 🔍) ☞ P.64, 90, 91
十字ボタン(△ ▽ ◁ ▷) ☞ P.44
ストラップ取付部 ☞ P.21
液晶モニタ ☞ P.40
OK ／メニューボタン (OK ☰) ☞ P.44
液晶モニタボタン (QUICK VIEW ◫) ☞ P.40
再生ボタン(▶)
三脚穴
電池カバー ☞ P.23

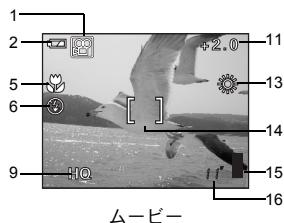
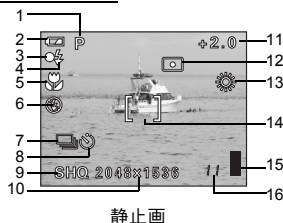
ファインダ

オレンジランプ ☞ P.55
緑ランプ ☞ P.55
AF ターゲットマーク ☞ P.55

液晶モニタの表示

●撮影モード

静止画

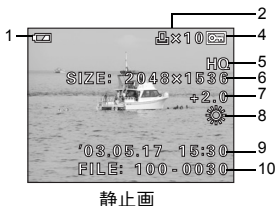
ムービー

1
準備

	項目	表示例	参照頁
1	撮影モード	P、、、、、、	P.52
2	電池残量	、	P.18
3	緑ランプ	○	P.55
4	フラッシュ発光予告／ 手ぶれ警告／フラッシュ充電	（点灯） （点滅）	P.67
5	マクロモード		P.70
6	フラッシュモード	、、	P.67
7	連写	、	P.75
8	セルフタイマー リモコン	、	P.71 P.72
9	画質	SHQ、HQ 、SQ 1、SQ2	P.81
10	画素サイズ	2272×1704、2048×1536など	P.81
11	露出補正	–2.0～+2.0	P.84
12	測光		P.74
13	ホワイトバランス	、、、	P.86
14	AFターゲットマーク	[　]	P.59

	項目	表示例	参照頁
15	メモリゲージ	、、、	P.18
16	撮影可能枚数（静止画） 撮影可能秒数（ムービー）	11 11"	P.55 P.62

●再生モード

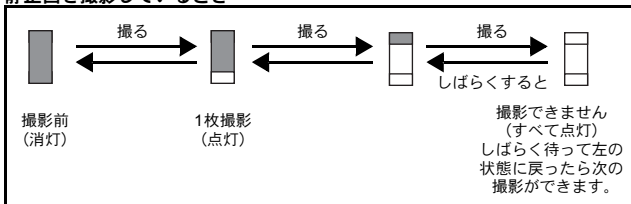
液晶モニタに表示される情報量を「情報表示」機能のオン／オフで選択できます。下の画面は「情報表示」の機能をオンにしたときの画面です。☞「画像の詳細情報を表示する（情報表示）」（P.110）

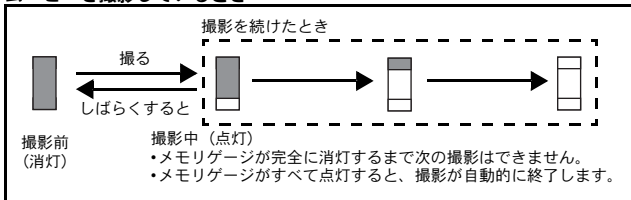
静止画　　ムービー

	項目	表示例	参照頁
1	電池残量	、	P.18
2	プリント予約・プリント枚数	×10	P.116
3	ムービー		P.96
4	プロテクト		P.98
5	画質	SHQ、HQ 、SQ 1、SQ2	P.80
6	画素サイズ	2272×1704、2048×1536など	P.81
7	露出補正	–2.0～+2.0	P.84
8	ホワイトバランス	、、、	P.86
9	日時	'03.05.17 15:30	P.35
10	ファイル番号（静止画） 経過秒数／記録時間（ムービー）	FILE: 100-0030 0"/20"	P.116

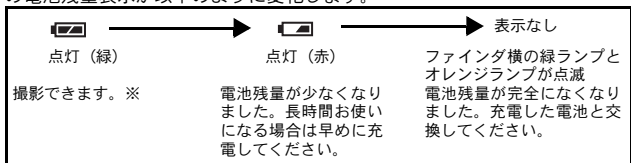
注意

- ムービーの場合、画像を選択して表示したときと、ムービー再生中で表示内容が異なります。

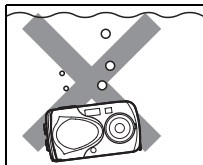
●メモリゲージについて

撮影をすると、メモリゲージが点灯します。点灯中は撮影した画像をカードに記録しています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。
メモリゲージがすべて点灯したときは、しばらく待って消えてから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

ムービーを撮影しているとき

●電池マークについて

カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように変化します。

※ デジタルカメラは、動作状態により消費電力が大きく変わります。カメラの動作状態によっては、電池残量の警告表示なしで電源がオフする場合があります。その際は電池を充電してください。

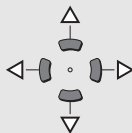
生活防水について

本製品は、生活防水機能をもっていますが、水中で使用することはできません。以下の点をよく守り正しくご使用ください。
お客様の誤ったご使用方法での浸水による故障は、保証対象外となります。ご注意ください。
（生活防水：JIS保護等級4相当（当社試験方法による）に該当し、いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響を受けないことをいいます。）

•水で洗わないでください。

•水の中に落とさないでください。

•水中での撮影はできません。

- 電池カバー、コネクタカバー、DC入力端子カバーなどのカバーが開いていると、防水機能は機能しません。必ず各カバーが閉じていることを確認してからご使用ください。
- 電池やカードを交換するときは、カメラの水滴を十分拭き取ってから行ってください。
- 撮影の時にはレンズ部に水がつかないようにしてください。（ピントが合わない場合があります）
- 水しぶきなどを浴びて水滴がついた場合は、早めに乾いた布などでふき取ってください。特に塩分は禁物です。
- 電池カバー、コネクタカバー、DC入力端子カバーのゴムパッキングの部分には強い力を加えたり、はがしたりしないでください。
- ゴムパッキングの部分の劣化およびキズがついた時は、オリンパスサービスステーションにご相談ください。（部品交換は有料となります。）
- 電池カバー、コネクタカバー、DC入力端子カバーのゴムパッキングの部分にゴミや砂が付着したまま使用しないでください。付着した時には浸水の原因になりますので、よく拭き取ってから閉めてください。
- 本製品の付属品（充電池など）は防水機能を持っていません。使用する場合は注意してください。

本書の見方

このページは説明のためのサンプルです。実際のページとは異なる場合があります。

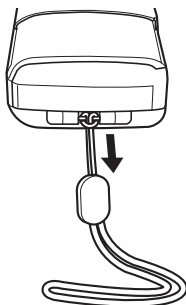
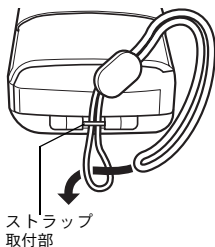
本書の表記について

注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
?	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ストラップを取り付ける

1 ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。

2 ストラップの長い方を輪にくぐらせます。

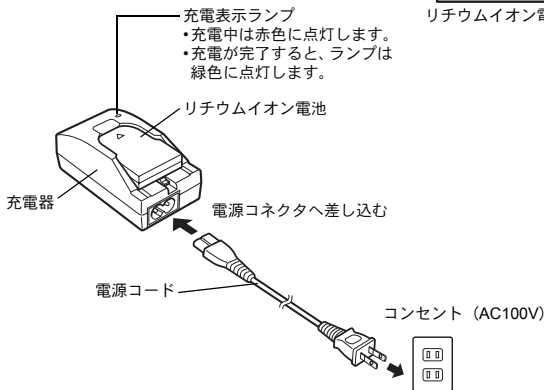
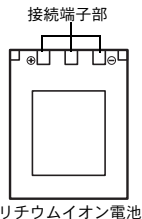
3 少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。

注意

- ストラップを取り付けた後、過度に引っぱらないようにしてください。切れる場合があります。
- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 手順にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は負いかねますのでご了承ください。

電池を充電する

このカメラでは当社製リチウムイオン電池（LI-10B）1 個を使用します。それ以外の電池は使用できませんのでご注意ください。
お買い上げの際の電池は十分に充電されていません。ご使用の前に専用の充電器（LI-10C）で充電を行ってください。詳しくは、充電器の取扱説明書（付属）をお読みください。

●電池について

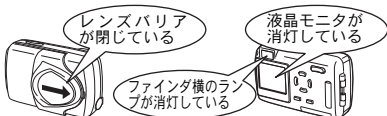
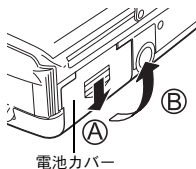
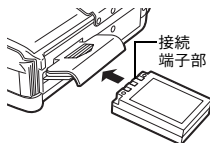
カメラに電池を挿入する際には右図の接続端子部を充電器の挿入口の指示+ –（位置）に従って入れてください。

• 専用の充電器以外は使用しないでください。
• 長時間使用する場合は、予備電池（別売）のご用意をおすすめします。

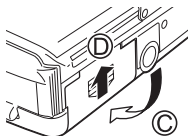
電池を入れる

電池は専用のリチウムイオン電池（LI-10B）1個を使用します。

重要

- 電池交換後は、必ず日時設定をご確認ください。

1 以下のことを確認してください。

2 電池カバーをⒶの方向（電池カバーに示されている▤の方向）へスライドさせて、Ⓑの方向に引き上げます。

3 図のように電池の接続端子部の向きを確かめて入れます。

4 電池カバーで電池を押さえるように閉めてⒸ、▤部分をしっかり押しながらⒹの方向にスライドさせます。

- 電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーの▤の刻印をしっかり押さえ、電池カバーを閉じた状態で図の矢印の方向へ押してください。

注意

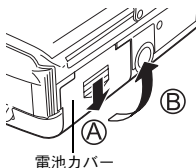
- 電池を外して約1日放置すると、日付と時刻は初期状態に戻ります。

電池使用時のご注意

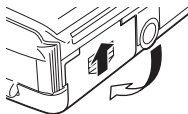
デジタルカメラは動作状態により、消費電力が大きく変わります。消耗した電池をお使いのときは、電池残量警告（P.18）が表示されずにカメラの電源がオフになる場合があります。

●電池を取り出す

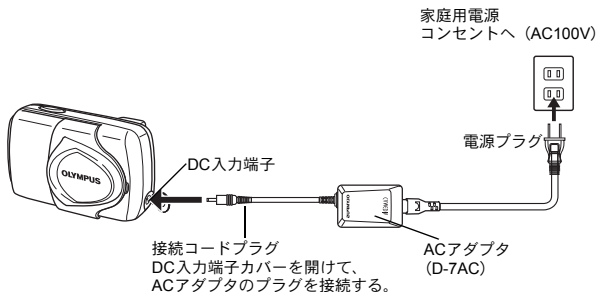
1 本体底面を上に向けます。
- 底面を下に向けて電池カバーを開けると電池が落ちます。

2 電池カバーをⒶの方向（電池カバーに示されている の方向）へスライドさせて、Ⓑの方向に引き上げます。

3 電池を取り出します。
- 電池を押さえながらカメラ底面を下に向けるなどして電池を取り出してください。

4 電池カバーを閉じます。

注意

- 電池カバーを開けるとき、電池が落下しないよう必ずカメラ底面を上に向けて行ってください。

別売のACアダプタを使う

このカメラでは付属の専用のリチウムイオン電池の他、ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。
画像をダウンロードするなど、時間がかかる作業を行なう場合には、ACアダプタの使用をおすすめします。
家庭用コンセントを使う場合は専用のACアダプタ（D-7AC）が必要です。専用のACアダプタ以外はご使用にならないでください。また、電源は必ずAC 100Vでご使用ください。

注意

- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。なお、パソコンとの接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池やACアダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、電池の消費が早くなることがあります。
  - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
  - ズーム動作を繰り返す。
  - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、オートフォーカス動作を繰り返す。
  - パソコンとの通信時。

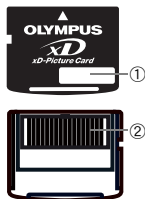
- 本書の「安全にお使いいただくために」（P.8）およびACアダプタの取扱説明書を必ずお読みください。
- カメラに電池が入っていても電力は AC アダプタから供給されます。カメラ内の電池は充電されません。

カードを入れる

本書では、xDピクチャーカードを「カード」と呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

カードについて

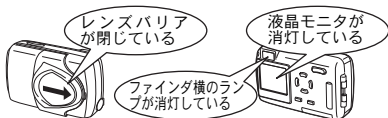
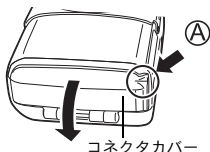
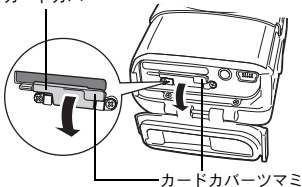
カードとは、撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。

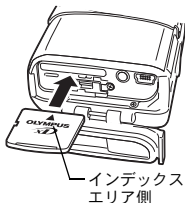
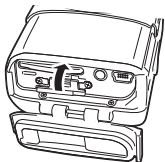
① インデックスエリア
カードに保存されている内容がわかるように、ここに記入できます。
② 接触面（コンタクトエリア）
カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。

使用できるカード

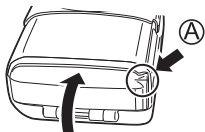
• xDピクチャーカード（16~256MB）

注意

• オリンパス製以外の市販のカードや、パソコンなどの他の機器でフォーマットしたカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。☞「フォーマットする（カードセットアップ）」（P.108）

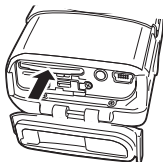
1 以下のことを確認してください。

2 コネクタカバーの図のⒶの部分を押しながら開きます。

3 カードカバーのツマミを手前に引いてカードカバーを開けます。

4 カードを入れます。

- カードの向きを正しく合わせて入れます。
- カードが斜めに入らないようにまっすぐに差し込みます。
- カードの向きを間違えたり、斜めに入れた場合、接触面が破壊されたり、カードがカメラから抜けなくなることがあります。
- カードが奥まで挿入されていないと、カードに記録できなくなることがあります。

5 カードカバーを閉じます。

6 コネクタカバーを閉じます。

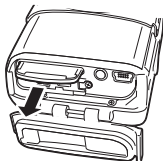
- コネクタカバーを閉じるときは、図のⒶの部分を押すように閉じてください。

カードカバーが開いたままコネクタカバーを閉じないでください。

カードを取り出す

1 コネクタカバーを開けて、カードカバーを開けます。

2 カードを一度奥に向かって押しこんで、そのままゆっくり戻します。
- カードが手前に出て止まります。

注意

カードを取り出す際にカードを押した指をすぐにはなしたり、指ではじくようにして押し出すと、カードが勢いよく飛び出すことがあります。

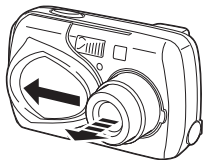
3 カードをつまんで取り出します。

注意

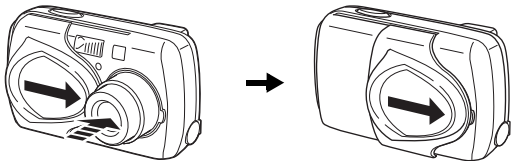
- カードはペンなどの先のとがったものや硬いもので押さないでください。
- カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。
- カードカバーを閉じた状態でカードを押さないでください。カードやカメラが破損することがあります。

電源のON／OFF

●撮影するとき

電源を入れる … レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。レンズがせり出し、液晶モニタに被写体が表示されます。
レンズバリアを開けてもレンズがせり出してこないときは、レンズバリアがはじめのクリック位置で止まっている場合があります。カチッと音がするところまで開いてください。
初めてお使いになるときや、電池を外して約1日放置していたときは、日付と時刻がリセットされています。この場合、電源を入れると「日時を設定してください」と表示されます。☞「日付・時刻を設定する」(P.35)
この状態で液晶モニタを消灯してもカメラの電源は切れません。

電源を切る …… レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。

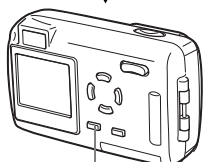
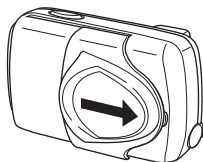
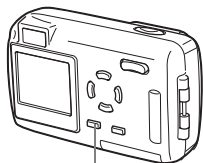
レンズに触れる直前にカチッとした感触があり、レンズが引き込まれます。レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。
電源が切れます（液晶モニタが消灯します）。

ヒント

- 電源を入れたまま約3分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になり、カメラは動作を停止します。液晶モニタが点灯しているときは自動的に消灯します。さらに5分後には自動的にレンズを収納します。シャッターボタンやズームボタンなどを操作するとすぐにカメラは動作を再開します。しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。

注意

- レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

●再生するとき

電源を入れる … レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。
再生モードで電源が入ります。液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

電源を切る …… ▶ を押します。
液晶モニタが消灯し、電源が切れます。

ヒント

- 電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。

注意

- カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜き差ししないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。カードを交換するときも、必ず電源を切ってからカードカバーを開けてください。

カードが認識されないときは（カードチェック）

電源を入れると、カードチェックが自動的に行われます。カードが入っていなかったり、このカメラで使用できないカードが入っているときは、以下の画面が表示されます。

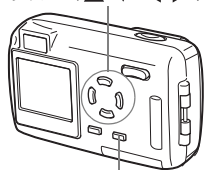
注意

• フォーマット（初期化）するとカード内の全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

液晶モニタ表示	こうしましょう
! カードを認識 できません	カードがカメラに入っていません。またはカードが奥までしっかりと入っていません。 →カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 ◆ 実行 ◆ OK	カードがこのカメラのシステムでは読み込めません。新しいカードに入れ換えるか、カードをフォーマットします。 →十字ボタンの △ ▽ を押して［電源オフ］を選択し、**OK** ☰ を押して新しいカードを入れてください。 →カードをフォーマットしてください。 十字ボタンの △ ▽ を押して［フォーマット］を選択し、**OK** ☰ を押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度［フォーマット］を選択して **OK** ☰ を押します。 フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

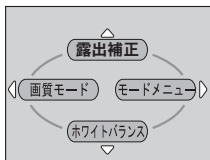
カメラで表示する言語を切り替える

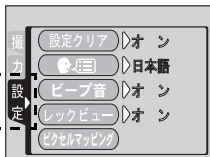
液晶モニタのメニュー表示やエラーメッセージを日本語でなく、他の言語にすることができます。日本語に戻すこともできます。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 OK を押します。

- トップメニューが表示されます。

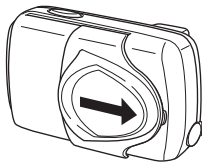
3 十字ボタンの ▷ を押して［モードメニュー］を選択します。

トップメニュー画面

4 △ ▽ を押して［設定］タブを選択し、▷ を押します。

5 △ ▽ を押して［ ］を選択し、▷ を押します。

6 △ ▽ を押して表示したい言語を選択し、OK ☰ を押します。

7 再度 OK ☰ を押してメニューを終了します。

8 電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

ヒント

• 再生モードからでも同じ手順で設定することができます。

日付・時刻を設定する

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 OK ☰ を押します。

- トップメニューが表示されます。

3 十字ボタンの ▷ を押して［モードメニュー］を選択します。

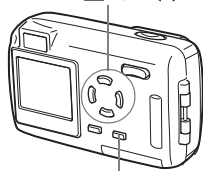
トップメニュー画面

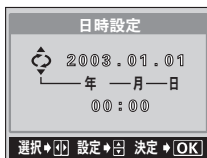
4 △ ▽ を押して［設定］タブを選択し、▷ を押します。

5 △ ▽ を押して［日時設定］を選択し、▷ を押します。

- 選択した項目に緑の枠が移動します。

1

準備

6 △▽を押して日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、▷を押します。

- 年の入力に移動します。
- 以下の手順は"年-月-日"に設定した場合の説明です。

7 △▽を押して最初の項目を入力し、▷で次の項にすすみます。

- ◁を押すと、1つ前の項目に戻ります。
- "年"の上 2 桁は固定されています。

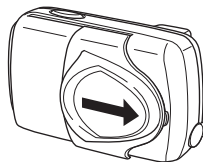
1 準備

8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

- カメラの時間表示は24時間表示を使用しています。たとえば、午後2時は14：00と表示されます。

9 OK ▤ を押します。

- 0秒の時報に合わせて **OK** ▤ を押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。

10 電源を切るときは、レンズバリアを閉じます。

注意

- 電源を切っても、日時の設定は変更するまで保持されます。
- 電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時の設定は解除されます（当社試験条件による）。また、カメラに電池を入れていた時間が短い場合は、これよりも早く日時の設定が解除されます。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。
- 日時設定が解除されると、カメラの電源を入れたときに液晶モニタに警告表示が出ます。☞「こんな表示がでたら」（P.122）

ヒント

- 再生モードからでも同じ手順で設定することができます。

カメラの正しい構え方

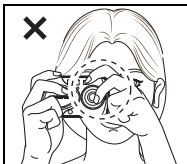
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。縦位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにします。
レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

液晶モニタを使って撮影

ファインダを使って撮影

横位置

縦位置

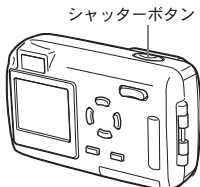
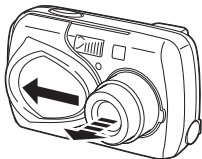
悪い例

レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。

注意

- シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

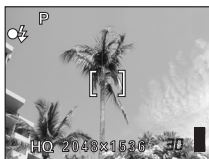
撮影する

静止画を撮る

☞P.55

1 レンズバリアを開けます。

2 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

3 シャッターボタンを押します。

- フラッシュが必要な条件ではオレンジランプが点灯し、フラッシュが自動的に発光します。
- オレンジランプが点滅し、カードに画像が記録されます。

ヒント

モード変更したい

ポートレート、風景など好みに応じて替えたいとき
☞「撮影モードについて」（P.52）

ピントが合わない、撮りにくい被写体は？

☞「ピントが合わないときは」（P.59）

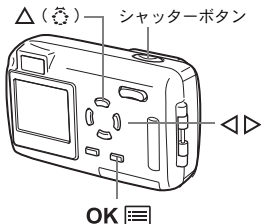
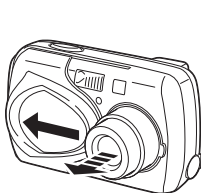
50 cm以内の被写体を撮りたい

☞「マクロ撮影－近くのものを撮るには」（P.70）

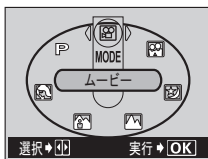
ファインダを使って撮るには

☞「ファインダを見て撮る」（P.56）

ムービーを撮る

☞P.62

1 レンズバリアを開けます。

2 △（🌀）を押します。
- バーチャルダイヤル画面（撮影モード選択画面）が表示されます。

3 ◁ ▷ を押してムービー（🎞）を選択し、OK ☰ を押します。

バーチャルダイヤル画面

4 液晶モニタを見ながら構図を決め、シャッターボタンを半押しします。
- ピントとホワイトバランスが固定されます。

5 シャッターボタンを全押しして、撮影を始めます。
- ムービー撮影中は液晶モニタの🎞マークが赤く点灯します。

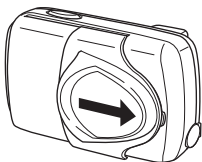
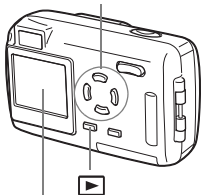
6 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。
- オレンジランプが点滅し、カード記録が始まります。

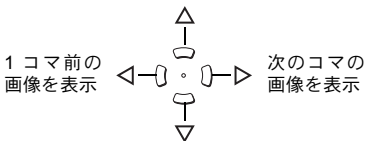
ヒント

ムービー撮影について詳しくは
☞「ムービーを撮る」（P.62）

再生する

静止画を見る

☞ P.88

1 レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。
- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

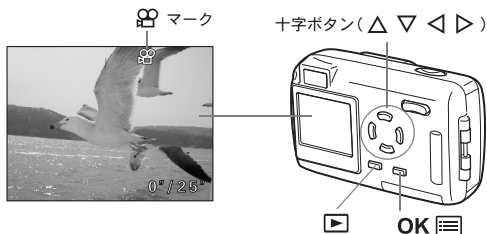
2 十字ボタンで見たい画像を表示します。

ヒント

液晶モニタで画像を拡大したい
☞「クローズアップ再生」（P.90）

撮影した画像を 1 度に複数表示したい
☞「インデックス再生」（P.91）

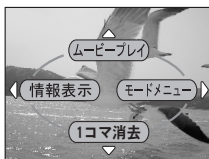
撮影した画像をテレビでみたい
☞「テレビでの再生」（P.94）

ムービーを見る

☞P.96

1 レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。

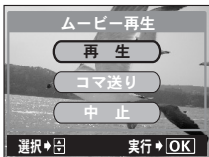
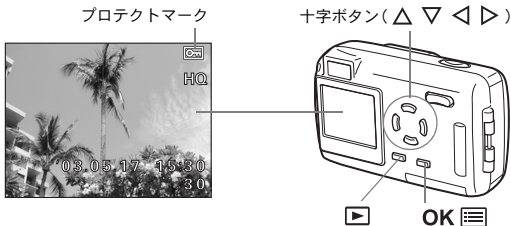
2 十字ボタンで マークのついた画像を表示し、OK を押します。

- トップメニューが表示されます。

3 △を押して「ムービープレイ」を選択します。

4 △ ▽ を押して「ムービー再生」を選択し、OK を押します。

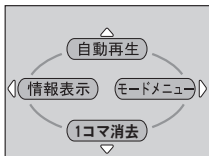
- ムービーの再生がはじまります。
- 再生が終わるとムービーの先頭に戻ります。
- 再生終了後に、再び OK を押すとムービー再生メニューが表示されます。
  - **再生**　もう一度再生します。
  - **コマ送り**　コマ送りをします。
  - **中止**　再生を中止します。

  △ ▽ を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選択し、OK を押します。
- コマ送りを選択したときの操作
  - △　先頭のコマを表示します。
  - ▽　末尾のコマを表示します。
  - ▷　コマが進みます。
  - ◁　コマが戻ります。

画像にプロテクト（保護）をかける

1　レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。
- 液晶モニタが点灯します。

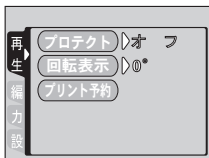
2　十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示し、OK ☰ を押します。
- トップメニューが表示されます。

自動再生
情報表示
モードメニュー
1コマ消去

3　▷ を押してモードメニューを表示します。

4　△ ▽ を押して［再生］を選択し、▷ を押します。

5　△ ▽ を押して［プロテクト］を選択し、▷ を押します。

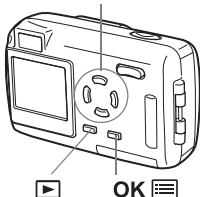
6　△ ▽ を押して［オン］を選択し、OK ☰ を押します。

再生
編
力
設
プロテクト　オフ
回転表示　0°
プリント予約

7　もう一度 OK ☰ を押します。
- メニューが終了し、画面にプロテクトマーク（O┳）が表示されます。

ヒント

モードメニューについて詳しくは
☞「メニューについて」（P.44）

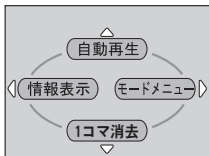
プロテクトを解除するには
☞「画像にプロテクト（保護）をかける」（P.98）

消去する（1コマ消去）

1 レンズバリアを閉じた状態で ▶ を押します。

- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで削除したい画像を表示し、OK ☰ を押します。

- トップメニューが表示されます。

3 ▽を押して［1コマ消去］を選択します。

4 △ ▽を押して「消去」を選択し、OK ☰ を押します。

- 画像が消去されます。

ヒント

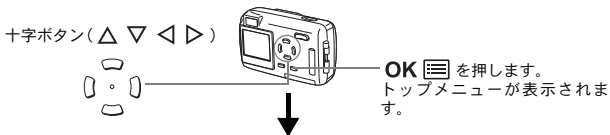
トップメニューについて詳しくは

☞「メニューについて」（P.44）

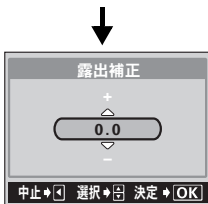
すべての画像を消去したい

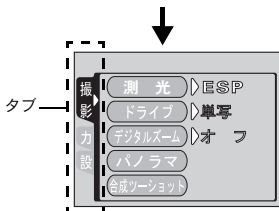
☞「全コマ消去」（P.100）

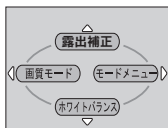
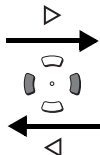
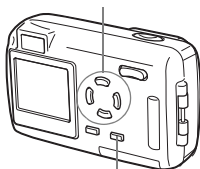
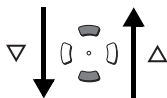
メニューについて

カメラの電源を入れて OK ☰ を押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは撮影モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。

ショートカットメニュー

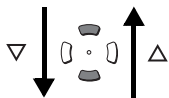
- 直接、各項目の設定画面に進みます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示されます。

△を押して「露出補正」を選択したとき

モードメニュー

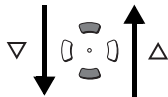
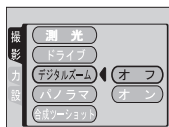
- 設定項目が機能ごとにタブに分類されています。
- △ ▽ でタブを選択すると、それぞれのタブのメニュー項目が表示されます。

メニューの操作方法

1 OK ☰ を押してトップメニューを表示させ、▷ を押します。

2 △ ▽ を押してタブを選択し、▷ を押します。

3 メニューとタブのしくみ

3 △ ▽を押して設定する項目を選択し、▷ を押します。

4 △ ▽を押して設定を変更します。**OK** ☰ を押すと設定が完了します。再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了し、撮影できる状態になります。

選択された項目に緑色の枠が移動します。

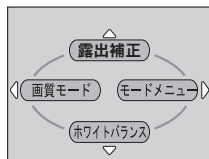
◁ または **OK** ☰

◁ または **OK** ☰ を押すとメニュー項目の選択に戻ります。

注意

- カメラのモードや設定内容などにより選択できない項目があります。
- 撮影時に設定タブのメニュー以外のメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定状態で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、［設定クリア］の機能を［オフ］に設定してください。☞「電源を切っても設定を残す（設定クリア）」（P.106）

ショートカットメニュー一覧

●撮影モード

トップメニューに設けられているメニューをショートカットメニューと呼びます。

露出補正

画像の明るさを調節します。	P.84

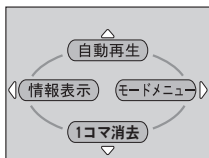
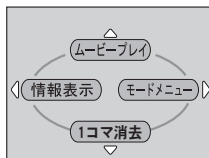
画質モード

撮影する画像の画質や画像の画像サイズを選択します。 静止画　：SHQ、HQ、SQ1、SQ2 ムービー：HQ、SQ	P.80

ホワイトバランス

光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.86

●再生モード

静止画撮影時

ムービー撮影時

自動再生

記録されている静止画を撮影順に表示します。	P.93

ムービープレイ

ムービー再生	ムービーを再生します。	P.96
インデックス作成	撮影したムービーを 9 分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.104

情報表示

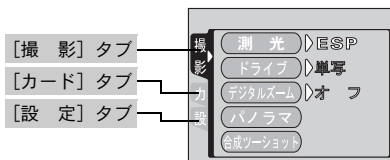
画像の撮影情報を表示します。	P.110

1コマ消去

表示している静止画またはムービーを消去します。	P.99

モードメニュー一覧

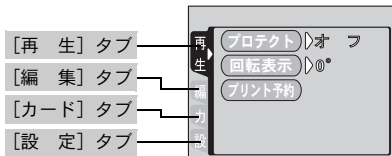
モードメニューの中はタブに分けられています。△ ▽ を押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

●撮影モード

［撮　影］タブ		
測光	測光方法を［ESP］［スポット］から選択します。	P.74
ドライブ	撮影方法を［単写］［連写］から選択します。	P.75
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率のズーム撮影が可能です。	P.65
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.76
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.78

［カード］タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.108

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.106
（言語アイコン）	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.33
ビープ音	カメラの警告音をオフにできます。	P.113
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示するかどうかを選択します。	P.112
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックを行います。	P.114

モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.111
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.35
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.115

●再生モード

［再　生］タブ		
プロテクト	画像を誤って消去しないようにプロテクト（保護）します。	P.98
回転表示	撮影した画像を時計回り（+90°）、または反時計回り（–90°）に回転して表示させます。	P.95
プリント予約	撮影した画像のプリント条件を設定します。	P.116

［編　集］タブ		
モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成し別の画像として保存します。	P.101
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成し別の画像として保存します。	P.102
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくして別の画像として保存します。	P.102

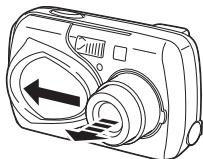
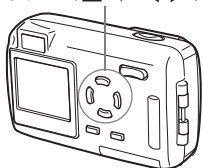
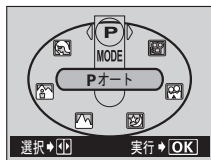
［カード］タブ		
カードセットアップ	カード内の全ての画像の消去やカードのフォーマットをします。	P.100 P.108

［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.106
(言語アイコン)	液晶モニタに表示される言語を切り換えます。	P.33
ビープ音	カメラの警告音をオフにできます。	P.113
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.111
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.35
ビデオ出力	テレビの映像信号方式に合わせて［NTSC］［PAL］から選択します。映像信号方式は国によって決まっています。	P.115
インデックス表示	インデックス再生時に、液晶モニタに一度に表示する画像の枚数を設定します。	P.92

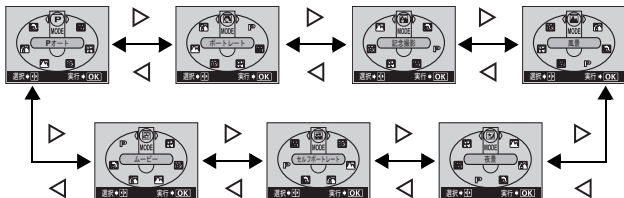
撮影モードについて

撮影の目的や状況に対応した撮影モードが 7 種類用意され、各モードごとに適した条件が設定されています。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 △（ ）を押します。

- 撮影モードを選択する画面（バーチャルダイヤル）が表示されます。

バーチャルダイヤル画面

3 目的に合わせて以下のモードのいずれかに設定します。

- ◁ ▷ を押して選択します。

4 OK ☰ を押します。

設定されて、バーチャルダイヤル画面が消えます。
OK ☰ を押さなくても、しばらくすると表示は消えます。

● P Pオート（初期設定）

通常の撮影に使用します。自然な色合いになるようにカメラが自動的に設定します。フラッシュや測光などその他の機能は、自由に設定できます。

● ポートレート

人物撮影をするのに最適です。肌の質感の再現を重視しています。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

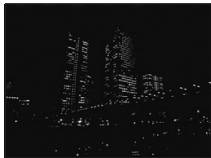
● 記念写真

人物と風景をいっしょに撮るのに最適です。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

● 風景

風景を撮るのに最適です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

● 夜景

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも遅いシャッター速度で撮影します。夜景以外のモードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。「夜景モードで撮る」（P.61）

● セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームは広角の位置で固定され、変更できません。

● 動画（ムービー）

ムービーを撮影します。被写体が変化しても、カメラは常に露出が正しく合うように作動します。音声は記録されません。「ムービーを撮る」（P.62）

ヒント

各モードで設定できる機能については「撮影モード別の設定可能な機能」（P.134）を参照してください。

注意

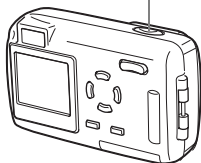
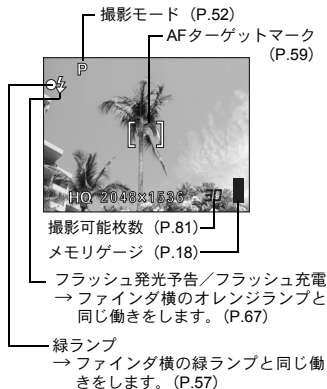
- セルフポートレートモードでは、スポット測光、デジタルズームはできません。

静止画を撮る

液晶モニタを見て撮る方法とファインダを見て撮る方法があります。どちらもシャッターボタンを押すだけで、手軽に撮ることができます。

液晶モニタを見て撮る

実際に写る範囲を確認しながら撮影できます。

1 レンズバリアを開けます。
- カチッと音がするまでスライドさせてください。
- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 液晶モニタを見ながらAFターゲットマークに被写体を合わせ構図を決めます。

3 シャッターボタンを軽く押して（半押し）、ピントを合わせます。

- ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。
- フラッシュが自動で発光するときは、オレンジランプが点灯します。

4 半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます（全押し）。

- 撮影され、ピピッと音がします。
- 緑ランプの点滅が終わると、次の撮影が可能になります。
- オレンジランプが点滅し、カード記録が始まります。

ヒント

液晶モニタが自動的に消灯した

→ 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯します。シャッターボタンやズームボタンを操作すると再び点灯します。さらに5分たつと、レンズも収納されます。

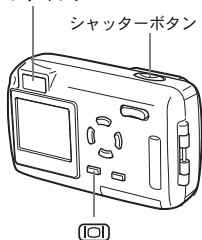
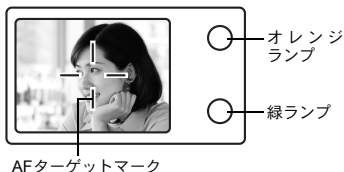
液晶モニタが見にくい

→ 晴天下のように明るい場所では、液晶モニタの画像に縦スジが入ることがあります。この場合は、ファインダを使って撮影してください。

ファインダを見て撮る

実際に撮影される範囲は、ファインダをとおして決めた構図よりやや広くなります。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯しますので、[◎] を押して消灯します。

2 ファインダ内のAFターゲットマークに被写体を合わせます。

3 液晶モニタを使った撮影と同じ手順で撮影します。

☞「液晶モニタを見て撮る」（P.55）

ヒント

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。50cm以上離れて撮影してください。50cm未満の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「マクロ撮影－近くのものを撮るには」（P.70）

→ 被写体の条件によってはピントが固定されないことがあります。☞「ピントが合わないときは」（P.59）

シャッターボタンを半押ししたときに、オレンジランプが遅く点滅している

→ フラッシュ充電中です。撮影後にオレンジランプが速く点滅しているときは、画像を保存中です。消灯するまでお待ちください。

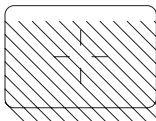
撮影した画像をすぐに確認したい

→［レックビュー］を［オン］にします。☞「撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）」（P.112）

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、ぶれる原因になります。
- 電源を OFF にしたり、電池の交換や取り外しを行っても、撮影した画像はカードに保存されています。
- オレンジランプの点滅中は、絶対に電池やACアダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、保存済みの画像が破壊されるおそれがあります。
- 強い逆光などで撮影すると、画像の影の部分に色がつくことがあります。
- 明るい被写体にレンズを向けると、液晶モニタの画像にスミア（白い帯状の縞）が見られる場合がありますが、撮影画像への影響はありません。

ファインダと液晶モニタを使い分ける

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいとき。人物や花のアップの撮影や、マクロ撮影などをするとき。

- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 写すものとの距離が近いと、左図のように実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

ピントが合わないときは

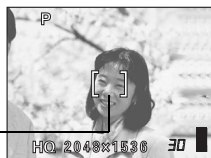
ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときは、次の操作で構図の好きな場所にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

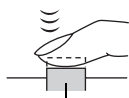
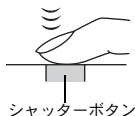
1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 ピントを合わせたいものにAF ターゲットマークを合わせます。

- ピントが合いにくいものの場合は、まず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

液晶モニタ

3 シャッターボタンを、緑ランプが点灯するまで半押しします。

- ピントと露出、ホワイトバランスが固定されます。
- 緑ランプが点滅したときは、ピントが固定されていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらしてもう一度シャッターボタンを半押ししてください。

4 半押しの状態のまま撮影したい構図にします。

4

撮影の基本

5 シャッターボタンを全押しします。

ヒント

緑ランプが点滅している

→ 被写体までの距離が近すぎます。50cm以上離れて撮影してください。50cm未満の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。☞「マクロ撮影ー近くのものを撮るには」（P.70）

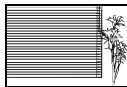
→ 被写体の条件によってはピントが固定されないことがあります。☞「オートフォーカスが苦手な被写体」（P.60）

オートフォーカスが苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

緑ランプ点滅
このようなものには
ピントが合いません

コントラストがはっきりしない被写体

画面中央に極端に明るいものがある場合

縦線のないもの

緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない

遠いものと近いものが混在する場合

動きの速いもの

ピントを合わせたいものが中央にない

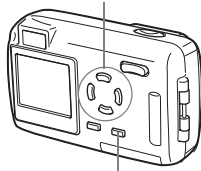
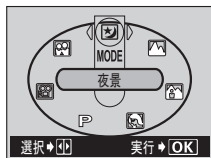
夜景モードで撮る

夜の景色を撮るときなど撮影モードを［夜景］に設定すると、夜景撮影に適した条件で撮影することができます。夜景モードで撮ると、フラッシュ発光時でもシャッター速度が最長 1/30 秒に固定されず、被写体や撮影時の状況に応じて最長 4 秒まで伸びます。

夜景モード撮影
（フラッシュオフ）

夜景モード撮影
（フラッシュ発光時）

1 レンズバリアを開けます。
- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 △（ ）を押して、バーチャルダイヤル画面（撮影モード選択画面）を表示します。

3 ◁ ▷ を押して夜景（ ）を選択し、OK を押します。
- 夜景撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
- 液晶モニタに夜景マーク が表示されます。

4 撮影します。

バーチャルダイヤル画面

注意

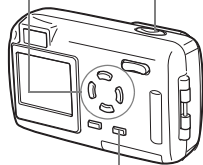
- フラッシュの設定は、夜景モードとは独立して設定されます。
  ☞「フラッシュを使う」（P.67）
- 夜景撮影時は、シャッター速度が遅くなりますので、カメラを三脚などで固定して撮影してください。

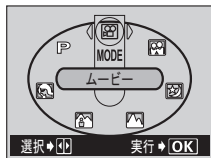
ムービーを撮る

動画が撮影できます。撮影した動画はカメラで再生したり、インデックス作成機能で別の静止画像として保存することができます。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 △（）を押して、バーチャルダイヤル画面（撮影モード選択画面）を表示します。

3 ◁ ▷ を押してムービー（）を選択し、OK を押します。

- ムービー撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
- 液晶モニタに と、使用しているカードで記録できる撮影可能枚秒数の合計が表示されます。

バーチャルダイヤル画面

4 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

5 シャッターボタンを半押しします。

- ピントとホワイトバランスが固定されます。

撮影可能秒数

6 シャッターボタンを全押しして撮影を始めます。

- ファインダ横のオレンジランプが点灯します。
- ムービー撮影中は マークが赤く点灯し連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。

7 もう一度シャッターボタンを押して、撮影を終了します。

- オレンジランプが点滅し、カード記録が始まります。
- 撮影可能秒数が 0 になると、自動的に撮影を終了します。

注意

- ムービー撮影では、撮影中に光学ズームの倍率は変更できません。W位置に固定されます。撮影中にズームするには［デジタルズーム］を［オン］に設定してください。☞「デジタルズームを使う」（P.65）
- フラッシュは使用できません。
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能秒数は、画質、カードの空き容量などにより変わります。
- 音声は記録できません。

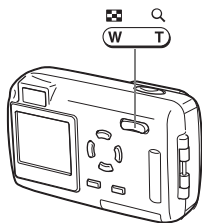
拡大して撮る

ズーム倍率3.0倍（光学ズーム35mmカメラ換算：35mm~105mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約15倍の撮影が可能です。🎥 モードでは、撮影中にズームを使用する場合はデジタルズームに設定してください。

デジタルズームの倍率
SQ2（640×480）時：　5 倍まで
その他の画質モード：　4 倍まで

光学ズームを使う

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 ズームボタンを押します。

広角：ズームボタン（W側）を押す　　望遠：ズームボタン（T 側）を押す

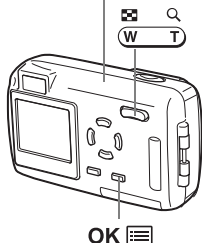
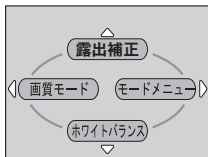
3 撮影します。

デジタルズームを使う

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 OK ☰ を押します。

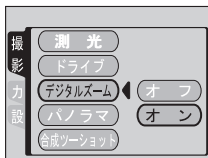
- トップメニューが表示されます。

3 ▷ を押して［モードメニュー］を選択します。

4 △ ▽ を押して［撮影］タブを選択し、▷ を押します。

5 △ ▽ を押して［デジタルズーム］を選択し、▷ を押します。

4

撮影の基本

6 △ ▽を押して［オン］を選択し、OK ☰ を押します。

- 再度 **OK** ☰ を押すとメニューが終了して、撮影できる状態になります。

7 ズームボタン（T 側）を押します。

- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されると、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップし、続けて T 側を押すとデジタルズームになります。

ズームの拡大率によってカーソルが上下に移動します。

8 撮影します。

注意

- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタを消灯させるとデジタルズームは解除され、設定されている光学ズームの倍率で撮影されます。デジタルズームがオンに設定されている間は、再び液晶モニタを点灯させるとデジタルズームが使用できる状態になります。
- セルフポートレートモードでは、拡大撮影はできません。

フラッシュを使う

撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 ▷（⚡）を押してフラッシュを設定します。

- 現在のフラッシュの設定が表示されます。
- ▷ を押すたびに［オート発光］［👁 赤目軽減］［⚡ 強制発光］［⚡ 発光禁止］の順で設定が変わります。

3 シャッターボタンを半押しします。

- フラッシュが発光条件のときは、オレンジランプが点灯します。

4 シャッターボタンを全押しして、撮影します。

- フラッシュ到達距離

	W	T
μ-10 DIGITAL	0.2～4.0 m	0.2～2.5 m
μ-20 DIGITAL	0.2～3.6 m	0.2～2.0 m

ヒント

オレンジランプまたは ⚡（フラッシュ充電中）マークが点滅した

→ フラッシュ充電中です。オレンジランプが消灯するまでお待ちください。

注意

- 以下の場合、フラッシュ使用はできません。
  被写体が明るいとき（オート発光、赤目軽減のみ）／ムービーモード／パノラマ撮影

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットマークを合わせて撮影してください。

●赤目軽減（◎）

人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。

目が赤く写ります

注意

- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（ϟ）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。

注意

- 非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

●発光禁止（⚡）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景の夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意

- 暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

マクロ撮影－近くのものを撮るには

20cm～50cmの距離で撮影するときに使います。
通常の撮影もできますが、遠距離の被写体にピントを合わせるのに時間がかかります。

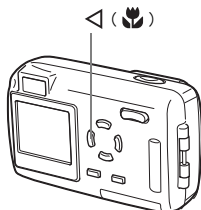
通常撮影

マクロ撮影

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 ◁（）を押してマクロを設定します。

- ◁ を押すたびに［マクロオン］［マクロオフ］の順で設定が切り替わります。［マクロオン］に設定されると、液晶モニタに が表示されます。

3 撮影します。

- 被写体との距離が近いと、ファインダ内の画像と実際に写る範囲にずれが生じます。撮影には液晶モニタの使用をおすすめします。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

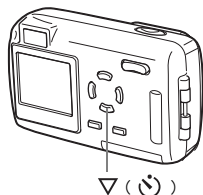
セルフタイマー撮影

セルフタイマーを使って撮影します。カメラを三脚にしっかり固定して撮影してください。記念写真を撮るときなどに便利です。

1 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

2 ▽（ ）を押してセルフタイマーを設定します。

- ▽を押すたびに［セルフタイマー／リモコンオフ］［セルフタイマー］［リモコン］の順で設定が切り替わります。設定されると、液晶モニタに が表示されます。

3 撮影します。

- セルフタイマー／リモコンランプが約10秒間点灯し、さらに約2秒間点滅した後、シャッターが切れます。
- セルフタイマーモードは、一回の撮影が終わると自動的に解除されます。

リモコン撮影（リモコン別売）

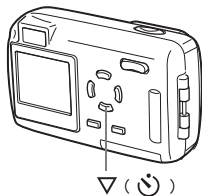
別売のリモコンを使って撮影できます。記念写真を撮るときや、夜景撮影など、カメラに触れないでシャッターを切りたい場合に便利です。

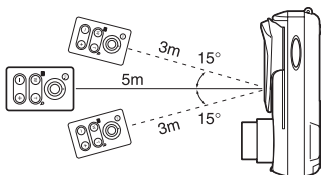
1 カメラを三脚などでしっかり固定させます。

2 レンズバリアを開けます。

- レンズがせり出し、液晶モニタが点灯します。

3 ▽（👆）を押してリモコンを設定します。

- ▽を押すたびに［セルフタイマー／リモコンオフ］［セルフタイマー］［リモコン］の順で設定が切り替わります。設定されると、液晶モニタに👆が表示されます。

4 リモコンをカメラの受信窓に向け、リモコンのWまたはTボタンを押すとカメラのズーム操作ができます。

- 操作中はランプが点滅します。

5 リモコンのシャッターボタンを押します。

- ピントと露出が固定され、カメラのセルフタイマー／リモコンランプが点滅し、約2秒後にシャッターが切れます。

ヒント

リモコンのシャッターボタンを押してもセルフタイマー／リモコンランプが点滅しない

→ カメラから離れすぎているため、リモコン信号が届いていません。カメラに近づいて、再度リモコンのシャッターボタンを押してください。

リモコンモードを解除したい

→ リモコンモードは撮影後も自動的には解除されません。手順3にしたがって「セルフタイマー／リモコンオフ」に設定してください。

注意

- リモコンのチャンネル切り換え機能には対応していません。どちらのチャンネルでもリモコン操作を受け付けます。
- リモコン受信窓に強い光があたると、リモコンの届く距離が短くなったり、撮影ができなくなることがあります。
- リモコン撮影で連写をする場合は、リモコンのシャッターボタンを押し続けてください。リモコンの受信状態が悪くなると、連写が途中で終了してしまうことがあります。
- レンズバリアを閉じているときはリモコン信号を受信できません。再生モードでリモコンを使用するときは、簡単再生（☞P.89）で再生モードにしてお使いください。再生モードでのリモコンの使い方は、リモコンの取扱説明書をお読みください。

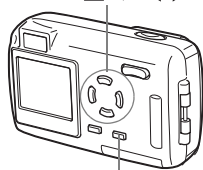
中央部の明るさを優先して撮る(測光)

逆光のとき、通常の測光の測定値（デジタルESP 測光）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、画面中央部の明るさに合わせて撮影できます。

ESP （表示なし） 画面の中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。

スポット（[•]） 画面の中央部のみを測光します。中央部の被写体に適正な露出にします。

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［測光］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

2 △ ▽ を押して［スポット］を選択し、OK を押します。

- 再度 **OK** を押すと、メニューが終了します。

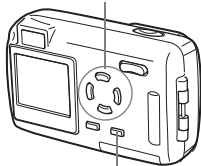
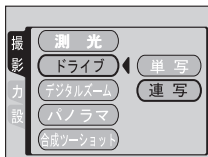
3 撮影します。

連写で撮る（連写）

シャッターボタンを押している間、約1 コマ／秒（連写モード、HQ 使用時）の静止画を連続して撮影する機能です（最小4コマ連続）。
連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。最初の1 コマで、ピントと露出は固定されます。明るさやホワイトバランスは1コマごとに測定されて固定されます。連写した後で不要な画像は、消去することもできます。☞「1コマ消去」（P.99）

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［ドライブ］→［連写］を選択し、OK ☰を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。

2 撮影します。

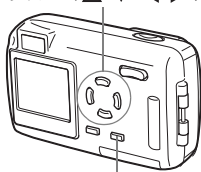
- シャッターボタンを全押ししている間は連写が続きます。指をはなすと連写は止まります。
- ファインダを使って撮影してください。
  連写中、液晶モニタに被写体は表示されません。

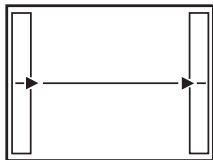
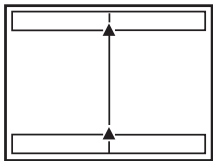
パノラマ撮影

当社製のxDピクチャーカードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD-ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

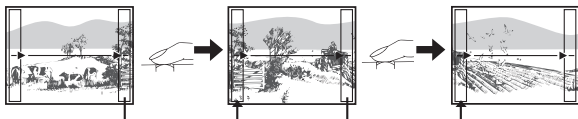
1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［パノラマ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- パノラマが設定されます。

2 液晶モニタを見ながら、十字ボタンでつなげる方向を指定します。

▷ ：次の画像を右につなげます。
◁ ：次の画像を左につなげます。
△ ：次の画像を上につなげます。
▽ ：次の画像を下につなげます。

左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

下から上へ画像をつなぐ撮影をする場合

3 被写体の端が重なるように撮影します。

- ピント・露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽などの光の強い被写体を入れた撮影などをしないでください。
- 1枚目を撮影した後は、ズーム操作はできません。
- 最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

端の枠に、前に撮影した画像の合わせるべき部分は残っていません。撮影時には、この枠の画像を覚えていて、次のコマの枠の画像と同じになるように撮影してください。前に撮影した画像の右端（左回りのときは左端）は、次の画像の左端（左回りのときは右端）と同じ画像が撮影できるように構図を設定して撮影してください。

- 10 枚撮り終わると警告マークが表示されます。

4 パノラマ撮影を終了するには、OK ☰ を押します。

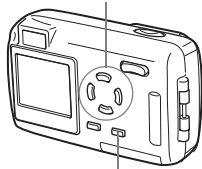
- 画面内の枠が消えて、通常の撮影モードに戻ります。

注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外でパノラマ撮影はできません。
- HQ ／ SHQ モードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写は使用できません。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。

再生時の画面

1 撮影モードでトップメニューから［モードメニュー］→［撮影］→［合成ツーショット］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 合成ツーショットが設定されます。

2 液晶モニタを見ながら1回目を撮影します。

- 撮影した被写体は左側に配置されます。

3 続けて2回目を撮影します。

- 撮影した被写体は右側に配置されます。

撮影時の画像

注意

- 合成ツーショット撮影中、パノラマ撮影、連写は使用できません。
- 電池消耗時（ マーク表示）は、フラッシュが自動的にオフになります。
- **OK** を押すか、レンズバリアを閉じると合成ツーショットが解除されます。また、1 枚目撮影後に合成ツーショットを中止したいときは **OK** を押してください。1 枚目に撮影した画像は記録されません。

画質モードを選択する(画質モード)

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや画像サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご覧ください。数値は目安です。

画質モード	特徴	画質	ファイルサイズ
SHQ	• 画像サイズが大きくて高画質 • 撮影可能枚数は少なくなり、画像の保存に時間がかかる 使用例 • きれいにプリントする。 • A4 サイズなどに大きくプリントする。 • パソコンで加工する。	きれい ↑	大きい ↑
HQ	• 初期設定 使用例 • パソコンで編集するときや葉書大にプリントする。		
SQ1／SQ2	• SHQ や HQ より小さい画像サイズを選べるモード • 標準的な画質 • 撮影可能枚数が多くなる 使用例 • メールに添付したりパソコンで画像を見る。	↓ 普通	↓ 小さい

静止画画質モード
μ-20 DIGITAL

画質モード	画像サイズ（ピクセル）	カードの記録可能枚数（16MBの場合）
SHQ	2272×1704	5
HQ		16
SQ1	2048×1536	20
SQ2	1600×1200	24
	1280×960	38
	1024×768	58
	640×480	99

静止画画質モード
μ-10 DIGITAL

画質モード	画像サイズ（ピクセル）	カードの記録可能枚数（16MBの場合）
SHQ	2048×1536	6
HQ		20
SQ1	1600×1200	24
SQ2	1280×960	38
	1024×768	58
	640×480	99

動画画質モード

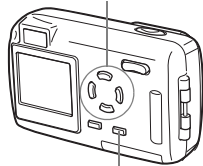
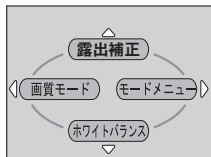
一度に連続して撮影できる時間（秒）

画質モード μ-20 DIGITAL／μ-10 DIGITAL	画像サイズ（コマ/秒）	連続撮影可能時間（秒）
HQ	320×240（15コマ/秒）	16
SQ	160×120（15コマ/秒	70

• 使用しているカードに記録できる撮影時間の合計は、🎥 モードに設定したときに画面に表示されます。

注意

• カードの記録可能枚数はおおよその目安です。
• 撮影可能枚数は撮影対象やプリント予約の有無などによっても変わります。撮影や画像の消去を行っても液晶モニタに表示される枚数が変わらないことがあります。

1 撮影モードでトップメニューから ◁ を押して［画質モード］を選択します。

☞「メニューの操作方法」(P.45)

2 △ ▽ を押して画質モードを選択します。

- 静止画の場合は［SHQ］［HQ］［SQ1］［SQ2］から選択します。

画面は μ-10 と μ-20 では異なります。

- ムービーの場合は［HQ］［SQ］から選択します。☞ 手順4へ

3 静止画用に［SQ2］を選択した場合は、さらに ▷ を押して画像サイズを選択する画面を表示し、△ ▽ を押して選択します。

画面は μ-10 と μ-20 では異なります。

4 OK ☰ を押します。

- 再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。

ヒント

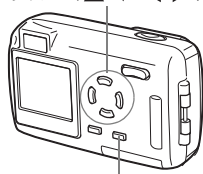
- **画像サイズ**
  画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、画像サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

- **画像サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ**
  撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの画像サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

画像の明るさを変える（露出補正）

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。1/3段刻みで±2.0の範囲で設定できます。設定を変更すると、液晶モニタで確認できます。

1 撮影モードでトップメニューから△を押して［露出補正］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

2 △▽を押して補正値を選択します。

- プラス［+］で明るく、マイナス［–］で暗くなります。

3 撮影します。

ヒント

- 通常、白い被写体（雪など）を撮影すると実際より暗く映ってしまいますが、＋に補正すると見たままの白を表現することができます。黒い被写体を撮影するときは、逆に–に補正すると効果的です。

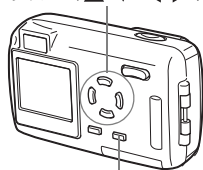
注意

- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正で補正しきれないときがあります。

画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

1 撮影モードでトップメニューから ▽ を押して［ホワイトバランス］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

2 △ ▽ を押して［オート］または［プリセット］を選択します。

オート（表示なし）	光源によらず、自然な色合いで写るよう自動的に調整します。
プリセット	光源に応じてホワイトバランスを選択します。
晴天（☼）	晴れた屋外で自然な色に写ります。
曇天（☁）	曇った屋外で自然な色に写ります。
電球（電球）	電球の灯りで自然な色に写ります。
蛍光灯（蛍光灯）	蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

3 OK ☰ を押します。

- ［オート］を選択した場合は、再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。
- ［プリセット］を選択した場合は、プリセットホワイトバランスを選択する画面が表示されます。

4　△ ▽ を押して［晴天］［曇天］［電球］［蛍光灯］から選択し、OK ☰ を押します。

• メニューが終了します。

5　撮影します。

注意

• 特殊な光源下では、ホワイトバランスの効果が発揮できない場合があります。
• オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
• オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

6 再生

静止画を見る

1 ▶を押します。

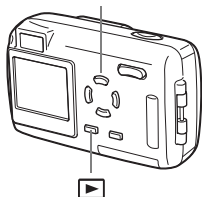
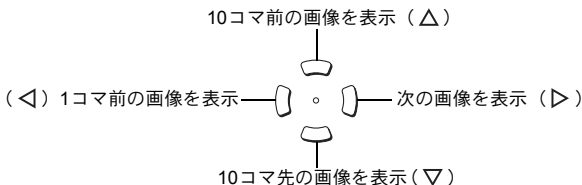
- 液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 十字ボタンで見たい画像を表示します。

10コマ前の画像を表示（△）

（◁）1コマ前の画像を表示

次の画像を表示（▷）

10コマ先の画像を表示（▽）

3 再生をやめるときは、▶を押します。

- 液晶モニタが消灯して電源が切れます。

- 3分以上何も操作をしないと、液晶モニタは消灯しカメラの電源が切れます。

簡単再生（QUICK VIEW）

撮影モードのままで画像を再生することができます。撮影した画像を確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。
簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

1 撮影モードで ◙ をすばやく 2 回続けて押します。（ダブルクリック）

- すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 撮影モードに戻るには、シャッターボタンを半押しします。

- 撮影モードに戻り、撮影することができます。
- シャッターボタンを全押しすると、すぐに撮影モードに戻り、撮影が行われます。

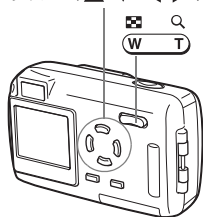
クローズアップ再生 Q

液晶モニタに表示される画像を4倍まで段階的に拡大表示します。

1 十字ボタンで拡大したい静止画を表示します。

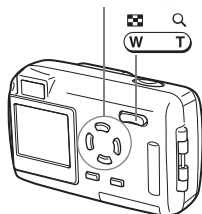
- 🎥 のついた画像は、拡大できません。

2 ズームボタン（T側）を押します。

- 拡大表示中に十字ボタンを押すと、その方向に画像をずらして表示することができます。
- W側を押すと1倍の大きさに戻ります。

- 拡大した状態で画像を保存することはできません。

インデックス再生

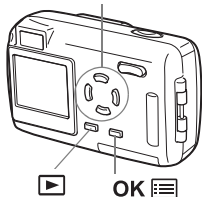
液晶モニタに複数の画像を一度に表示します。表示するコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。☞「インデックス分割数を変えるには」（P.92）

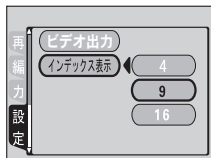
1 **1コマ再生中、ズームボタン（W側）を押します。**

- 十字ボタンを押して画像を選択します。
  - ◁ ：1つ前のコマへ移動。
  - ▷ ：1つ次のコマへ移動。
  - △ ：左上の画像の 1 つ前までのインデックスを表示。
  - ▽ ：右下の画像の次からのインデックスを表示。
- ズームボタン（T側）を押すと1コマ再生に戻ります。

インデックス分割数を変えるには

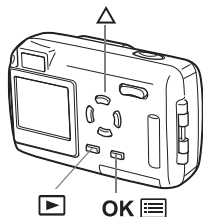
インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマから選択します。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［インデックス表示］を選択し、▷ を押します。

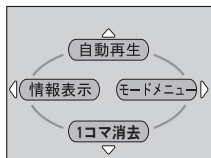
☞「メニューの操作方法」（P.45）

2 △ ▽ を押して［4］［9］［16］から選択し、OK ☰ を押します。

- 再度 OK ☰ を押すと、メニューが終了します。

自動再生

カードに記録されている静止画像を1枚ずつ自動的に再生します。ムービーコマは、最初のフレームのみが静止画と同じように再生されます。

1 静止画を表示して OK ☰ を押し、トップメニューを表示します。

2 △（自動再生）を押すと、自動再生がスタートします。

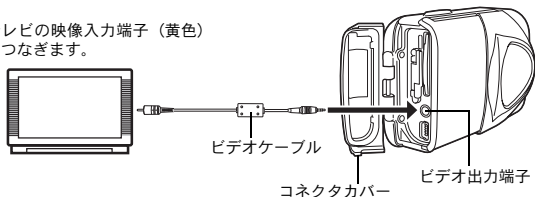
3 OK ☰ を押すと、自動再生が終了します。

- **OK** ☰ を押すまで自動再生が繰り返されます。

注意

- 長時間自動再生を行う場合は、ACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。電池をお使いの場合、30分経過すると自動的に自動再生が終了し、電源が切れます。

テレビでの再生

付属のビデオケーブルでテレビに接続して画像を再生します。静止画、ムービーのどちらも再生できます。

1 カメラとテレビの電源を切り、ビデオケーブルでカメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子を接続します。

2 テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。

- ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 ▶ を押します。

- 最後に撮影した画像がテレビに表示されますので、十字ボタンで表示する画像を選択します。
- 「クローズアップ再生」、「インデックス再生」、「自動再生」等の再生機能が可能です。

ヒント

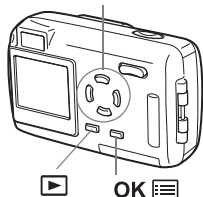
- テレビで再生する場合は、AC アダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

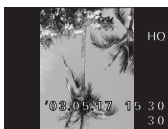
注意

- カメラのビデオ信号が、お使いのテレビの映像信号に合っていることを確認してください。☞「ビデオ出力」（P.115）
- ビデオケーブルを接続すると、カメラの液晶モニタ表示は消えます。
- テレビとの接続には必ず付属のビデオケーブルをご使用ください。
- テレビにより画像が画面中央からずれることがあります。
- テレビには画像全体を表示するために少し小さめに表示され、画像の外側に黒枠が表示されます。テレビからビデオプリンタに画像を出力すると、黒枠が表示されることがあります。

回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような横向きの画像を回転して縦向きに表示します。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［回転再生］を選択し、▷ を押します。

2 △ ▽ を押して［+90°］［–90°］から選択します。

- 画像が回転して表示されます。
- OK を 2 回押すと、メニューが終了します。

［–90°］　撮影時の画像　［+90°］

注意

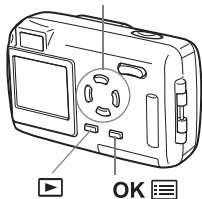
- 次の画像は回転再生できません。
  ムービー／プロテクトされた画像／パソコンで編集した画像／他のカメラで撮影した画像
- 電源を切っても、画像が回転された状態は記録されます。

ムービーを見る

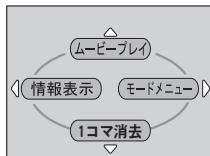
1 ▶ を押します。

- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで 🎥 マークの付いた画像を表示します。

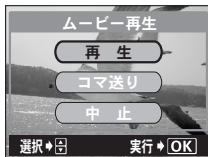
☞「静止画を見る」（P.88）

3 OK ☰ を押します。

- トップメニューが表示されます。

4 △ を押して［ムービープレイ］を選択します。

5 △ ▽ を押して［ムービー再生］を選択し、OK ☰ を押します。

- ムービーが再生されます。再生が終わるとムービーの先頭に戻ります。
- 再生終了後に、再び OK ☰ を押すとムービー再生メニューが表示されます。

  再生　もう一度再生します。
  コマ送り　コマ送りをします。
  中止　再生を中止します。

  △ ▽ を押して［再生］［コマ送り］［中止］から選択し、OK ☰ を押します。

●［コマ送り］を選択したときの操作

△　：ムービーの先頭のコマを表示します。
▽　：ムービーの末尾のコマを表示します。
▷　：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
◁　：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
OK ☰ ：ムービー再生メニューが表示されます。

ヒント

- 撮影モードからも簡単再生（QUICK VIEW）でムービーを再生できます。☞「簡単再生（QUICK VIEW）」（P.89）

注意

- ムービーを再生するまでのアクセス時間は、ムービーの記録時間や画質モードによって異なります。

画像にプロテクト（保護）をかける

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。

1 ▶ を押します。

- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンでプロテクトをかけたい画像を表示します。

☞「静止画を見る」（P.88）

3 OK ☰ を押します。

- トップメニューが表示されます。

4 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プロテクト］を選択し、▷ を押します。

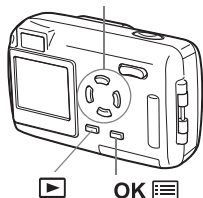
☞「メニューの操作方法」（P.45）

プロテクトされると表示されます。

5 △ ▽ を押して［オン］を選択し、OK ☰ を押します。

- プロテクトを解除するには、［オフ］を選択します。

6 OK ☰ を押します。

- メニューが終了し、画面にプロテクトマーク（ ）が表示されます。

注意

- プロテクトされた画像は1コマ消去／全コマ消去で消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。

画像を消去する

撮影した画像を消去することができます。1 コマ消去と全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合は消去できません。画像のプロテクトを解除してから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。☞「画像にプロテクト（保護）をかける」（P.98）

1コマ消去

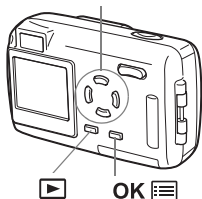
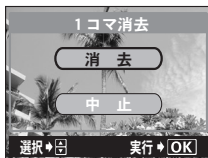
ここでは再生中のコマのみを消去する1コマ消去について説明します。カード内の全ての画像を消去する方法もあります。☞「全コマ消去」（P.100）

1 ▶ を押します。
- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで消去したい画像を表示します。
☞「静止画を見る」（P.88）

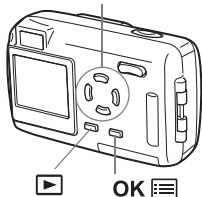
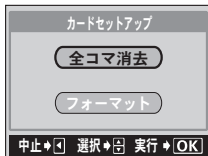
3 OK ☰ を押します。
- トップメニューが表示されます。

4 ▽ を押して［1 コマ消去］を選択します。

5 △ ▽ を押して［消去］を選択し、OK ☰ を押します。
- 画像が消去され、メニューが終了します。

6
再生

全コマ消去

カード内のすべての画像を消去します。

1 再生モードでトップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

2 △▽を押して［全コマ消去］を選択し、OK を押します。

3 △▽を押して［消去］を選択し、OK を押します。

• すべての画像が消去されます。

静止画の編集

撮影した静止画を編集して別の画像として保存します。以下の編集を行うことができます。

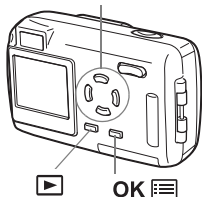
モノクロ作成 白黒に変換して、別の画像として保存します。
セピア作成 セピア色に変換して、別の画像として保存します。
リサイズ 画像サイズを640×480、または320×240に変更して、別の画像として保存します。

1 ▶ を押します。
- 液晶モニタが点灯します。

2 十字ボタンで編集したい静止画を表示します。
☞「静止画を見る」（P.88）

3 OK ☰ を押します。
- トップメニューが表示されます。

4 トップメニューから［モードメニュー］→［編集］→各編集項目を選択します。
☞「メニューの操作方法」（P.45）

- ［モノクロ作成］を選択 ☞ P.101
- ［セピア作成］を選択 ☞ P.102
- ［リサイズ］を選択 ☞ P.102

モノクロ作成

5 ［モノクロ作成］を選択した状態で、▷ を押します。

6 △ ▽ を押して［新規作成］を選択し、OK ☰ を押します。

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたモノクロ画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- モノクロ作成をやめるときは［中止］を選択して **OK** ☰ を押してください。

6
再生

注意

- ムービーはモノクロにすることができません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

セピア作成

5 ［セピア作成］を選択した状態で、▷ を押します。

6 △ ▽ を押して［新規作成］を選択し、OK ☰ を押します。

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたセピア画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- セピア作成をやめるときは［中止］を選択して **OK** ☰ を押してください。

注意

- ムービーはセピアにすることができません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

リサイズ

5 ［リサイズ］を選択した状態で、▷ を押します。

6 △ ▽ を押して画像サイズを選択し、OK ☰ を押します。

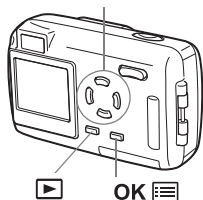
リサイズ
640×480
320×240
中　止
戻る➡◁　選択➡△▽　実行➡OK

- 作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は元の画像とは別の画像として保存されます。
- リサイズを中止するときは［中止］を選択して **OK** ☰ を押します。

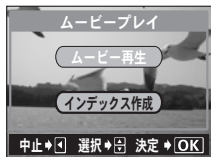
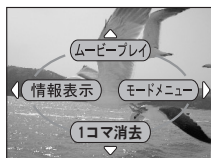
- 次の場合はリサイズできません。
  ムービーやパソコンで編集した画像／カードの空き容量が不足している場合
- 撮影時の画像サイズが640×480の場合、［640×480］の設定はできません。

インデックス作成

作成したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）します。

1 十字ボタンで の付いた画像を表示します。

2 トップメニューから［ムービープレイ］→［インデックス作成］を選択します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

6 再生

3 △ ▽ を押して「新規作成」を選択し、OK ☰ を押します。

- 中止するときは「中止」を選択し、**OK** ☰ を押します。

- ムービーから抜き出された 9 コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。

ヒント

- インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ2（1024×768ピクセル）
SQ	SQ2（640×480ピクセル）

注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9コマです。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

電源を切っても設定を残す（設定クリア）

電源を切った後も、変更した設定値を保持するかどうか選択します。設定クリアが適用される機能については、次頁の表を参照してください。
設定クリアの［オン］［オフ］の設定は、すべてのモードで共通です。いずれかのモードで設定クリアを［オフ］に設定すると、撮影モード、再生モードにかかわらず、適用されます。

オン 電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。
例：「画質モード」をSQ1に変更しても「設定クリア」が「オン」になっていると、電源を入れなおしたとき初期設定のHQに戻ります。

オフ 電源を切っても変更した設定値は保持されます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［設定クリア］→［オフ］または［オン］を選択し、OK ☰ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 再度 OK ☰ を押すと、メニューが終了します。

注意

- モードメニューの設定タブの機能（設定クリア、☰ 、ビープ音など）は、設定クリアがオンに設定されていても初期設定に戻りません。

●設定クリアがオンのとき設定が元に戻る機能とその設定

機能名	初期設定	参照頁
液晶モニタ	オン（点灯）	P.55
撮影モード	Pオート（プログラム撮影）	P.52
ドライブ	単写（静止画）	P.75
デジタルズーム	オフ（等倍）	P.65
フラッシュ	オート	P.67
露出補正	±0	P.84
測光	ESP	P.74
ホワイトバランス	オート	P.86
画質	HQ	P.80
マクロ	オフ	P.70
リモコン	オフ	P.72

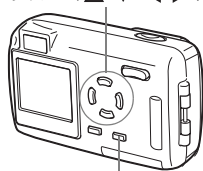
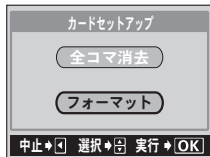
フォーマットする(カードセットアップ)

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

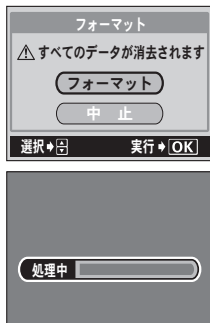
フォーマットするとプロテクトをかけた画像を含む全てのデータは消去されます。使用済みカードをフォーマットするときは大切なデータを消さないようご注意ください。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［カード］→［カードセットアップ］→を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 撮影モード
  フォーマット画面が表示されます。
- 再生モード
  カードセットアップ画面が表示されます。

2 フォーマット画面の場合は、△ ▽ を押して［フォーマット］を選択します。

カードセットアップ画面の場合は、△ ▽ を押して［フォーマット］を選択し、OK を押します。フォーマット画面が表示されたら、△ を押して［フォーマット］を選択します。

3 OK ☰ を押します。

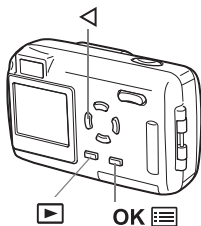
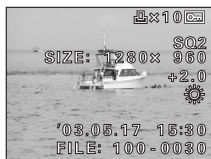
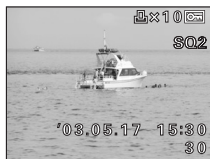
- 画面に処理中のバーが表示され、フォーマットされます。

注意

- フォーマット中は絶対に次のことをしないでください。カードが使用できなくなるおそれがあります。
  カードカバーを開ける／電池を取り外す／ACアダプタの抜き差しをする

画像の詳細情報を表示する（情報表示）

再生時の画像の詳細情報を3秒間表示します。表示される情報の内容については、「液晶モニタの表示」（P.15）を参照してください。

1 再生モードのトップメニューで ◁（情報表示）を押すと、詳細情報が表示されます（オン）。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

・ **OK** を押し、もう一度トップメニューを表示させて ◁ を押すと、詳細情報が表示されなくなります（オフ）。

情報表示オンの時

情報表示オフの時

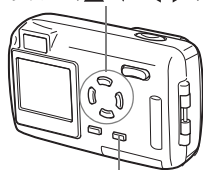
注意

・このカメラ以外で撮影した画像は、情報表示オン時でも日時、ファイル番号、電池残量だけが表示されます。
・DPOFを使用せずにプリントサービスを利用する場合に指定するファイル番号は、情報表示をオンにしたときに表示されます。
☞「プリントについて」（P.116）

液晶モニタの明るさを変更する(モニタ調整)

液晶モニタの明るさを見やすいように調整します。調整は、撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［モニタ調整］を選択し、▷ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.45)

2 液晶モニタを見ながら △ ▽ を押して明るさを調整し、設定が決まったら OK を押します。

- △ を押すと明るくなり、▽ を押すと暗くなります。
- 再度 OK を押すと、メニューが終了します。

7

カメラの便利機能

撮影後すぐに画像を確認する(レックビュー)

撮影した直後に画像を液晶モニタに表示するかどうか設定します。

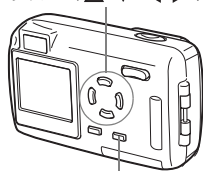
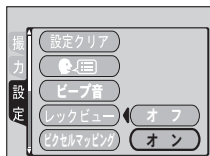
オン　撮影した画像をカードに記録中に表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。レックビュー中でもすぐに次の撮影に入れます。

オフ　記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

1 撮影モードでトップメニューから[モードメニュー]→[設定]→[レックビュー]→[オフ]または[オン]を選択し、OK ☰ を押します。

☞「メニューの操作方法」(P.45)

- 再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。

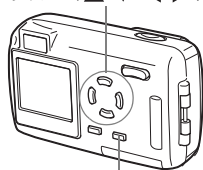
7

カメラの便利機能

警告音を消す（ビープ音）

カメラが発する警告音をオン／オフすることができます。ビープ音の設定は撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビープ音］→［オフ］または［オン］を選択し、OK ☰ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。

画像処理機能をチェックする(ピクセルマッピング)

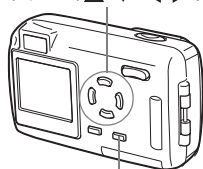
CCDと画像処理機能のチェックを同時に行います。この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より1分ほど時間を空けた後に実行します。

1 撮影モードでトップメニューから[モードメニュー]→[設定]→[ピクセルマッピング]を選択し、▷を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 「スタート」と表示されます。

2 OK ☰ を押します。

- ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。

注意

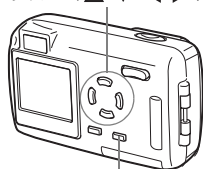
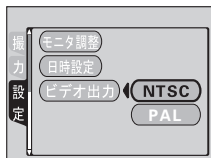
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。

ビデオ出力

お使いのテレビの映像信号に合わせて、NTSCまたはPALを選択します。海外でテレビに接続して再生するときに、設定を合わせてください。NTSC/PALの切り替えは、撮影モード、再生モードのいずれからでも行うことができます。

1 トップメニューから［モードメニュー］→［設定］→［ビデオ出力］→［NTSC］または［PAL］を選択し、OK ☰ を押します。

☞「メニューの操作方法」（P.45）

- 再度 **OK** ☰ を押すと、メニューが終了します。

ヒント

主な国と地域のテレビ映像信号

カメラをお使いのときは、あらかじめご確認ください。

NTSC　日本、台湾、韓国、北米
PAL　ヨーロッパ諸国、中国

プリントについて

画像をプリントするには、以下の方法があります。

●プリント予約を設定してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。
•DPOFとは
Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。
プリント予約したカードをDPOF対応のお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントできます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

●オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400／P-200でプリント

パソコンを使わずに、専用プリンタから直接プリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。
xDピクチャーカードを直接プリンタに差し込むことはできません。カードアダプタ（別売）が必要です。

●画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。
カメラとパソコンの接続や画像の転送については、別冊の「デジタルカメラ／パソコン接続操作説明書」をお読みください。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016
フォルダの通し番号　画像の通し番号

ヒント

撮影時の画質モードとプリントの関係

パソコンやプリンタの解像度には一般的に1インチあたりの点（ピクセル）の数が用いられ、dpi （dot per inch）と呼ばれています。同じ画像をプリントしても、プリント時のdpi の値を大きくすることでより鮮明に印刷することができますが、撮影された画像のピクセル数は変わらないため、実際に印刷されるサイズは小さくなります。その画像を拡大してプリントすることもできますが、画質は粗くなります。

プリントすることを前提として撮影するときや、大きいサイズでプリントしたいときは、撮影時の画質モードをできるだけ高いものに設定することをおすすめします。☞「画質モードを選択する（画質モード）」（P.80）

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- DPOF 予約で予約できる枚数は、1枚のカードにつき 999 コマまでです。
- カードに空き残量が少ないと予約できない場合があります。「カード残量がありません」と表示されます。
- 「この画像は再生できません」と表示される画像でも、プリント予約を設定できることがあります。その場合、1 コマ再生だとプリント予約マークは表示されません。複数の画像を表示しているときは（インデックス表示）、マークが表示され、プリント予約を確認できます。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約

カードの中の全画像をプリント予約します。撮影日付または撮影時刻を指定することができます。予約枚数は各1枚です。枚数を変更する場合は1コマ予約をしてください。

十字ボタン(△ ▽ ◁ ▷)

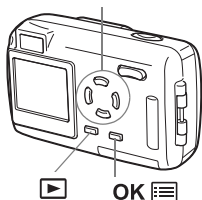
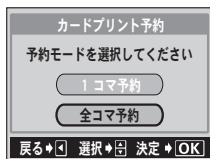
OK

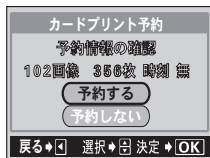
1 静止画を再生します。
- 🎥のついた画像はプリントできません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、▷ を押します。
- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」（P.121）

3 △ ▽ を押して［全コマ予約］を選択し、OK を押します。

カードプリント予約
予約モードを選択してください
1 コマ予約
全コマ予約
戻る◀ 選択▲▼ 決定 OK

4 △ ▽ を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、OK を押します。
- カードプリント予約画面が表示されます。

無し　画像のみプリントされます。
日付　全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻　全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

5 △ ▽ を押して［予約する］を選択し、OK を押します。
- 予約をやめる場合は、［予約しない］を選択し、**OK** を押します。
- プリント予約の情報がカードに保存され、再生メニューに戻ります。

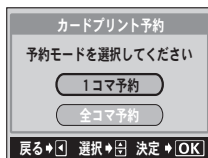
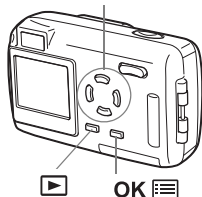
1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。また、すでに予約した枚数や日時のプリントなどの条件を変更します。プリントする画像を表示してプリント枚数を設定します。

1 静止画を再生します。
- 🎥のついた画像はプリントできません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、▷ を押します。
- すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するかを選択する画面が表示されます。
  ☞「プリント予約の解除」（P.121）

3 △ ▽ を押して［1コマ予約］を選択し、OK ▤ を押します。
- インデックス再生になっている場合は、1コマ再生にしてください。

4 ◁ ▷ を押してプリントするコマを選択します。

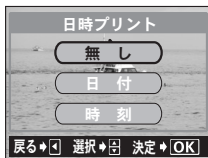
5 △ ▽ を押してプリントする枚数を選択し、OK ▤ を押します。
- 最大10枚まで予約できます。0枚の設定ではプリント予約されません。

予約枚数が表示されます。

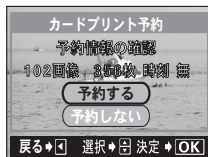
6　△ ▽ を押して［無し］［日付］［時刻］から選択し、OK ☰ を押します。

•カードプリント予約画面が表示されます。

無し　画像のみプリントされます。

日付　画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

7　△ ▽ を押して［予約する］を選択し、OK ☰ を押します。

• 予約をやめる場合は,［予約しない］を選択し、**OK** ☰ を押します。
• プリント予約の情報がカードに保存され、再生メニューに戻ります。

予約枚数が1枚のときは、プリント予約マークのみが表示されます。

8

プリント予約

プリント予約の解除

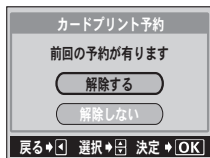
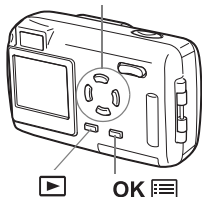
カード内のすべての画像のプリント予約を解除します。

1 静止画を再生します。
- 🎥 のついた画像はプリントできません。

2 トップメニューから［モードメニュー］→［再生］→［プリント予約］を選択し、▷ を押します。
- プリント予約した画像がある場合は、カードプリント予約画面が表示されます。

3 △ ▽ を押して［解除する］を選択し、OK ☰ を押します。
- プリント予約した画像がない場合は、この画像は表示されません。
- 予約を解除しない場合は,［解除しない］を選択し、**OK** ☰ を押します。

カードプリント予約画面

8
プリント予約

こんな表示がでたら

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
[!] カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
[!] このカードは使用できません	カードに問題があります。	このカードは使用できません。新しいカードを入れてください。
[!] 書き込み禁止になっています。	カードが書き込み禁止になっています。	パソコンを使って読み取り専用の設定がされています。再度パソコンを使って解除してください。
[!] 撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が０のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
[!] カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。
[!] この画像は再生できません	選択した画像に問題があり再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。
カードカバーが開いています	カードカバーが開いています。	カードカバーを閉めてください。
日時を設定してください。	日時が設定されていません。	日時を設定してください。

故障かな？と思ったら

●うまく操作ができない

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P.30
電池残量が少なくなった	電池を充電してください。	P.18
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームボタンを操作してください。	P.30
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

* 結露：外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズバリアを閉じている	レンズバリアを開けてください。	P.30
電源が入っていない	レンズバリアを開けてください。	P.30
ムービー撮影後、カードに書き込み中である	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.62
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.99
メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.18
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.122

ファインダ横の緑ランプとオレンジランプが同時に点滅している		
原因	こうしましょう	参照ページ
電池の残量がない	電池を充電してください。	P.22

液晶モニタに被写体が表示されない		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタを消灯してレンズバリアを閉じた	「モードメニュー」の「設定」タブにある「設定クリア」が「オフ」に設定されていると、レンズバリアを閉じる前の状態が記憶されています。液晶モニタを点灯させてからレンズバリアを閉じてください。	P.106
連写撮影をしている	連写中は液晶モニタに画像は表示されません。	P.75

ピント合わせのとき画面の色が乱れる		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを半押ししたとき、液晶モニタに表示されている画面の色が乱れることがある	故障ではありません。ピントが合うと正しい色で表示されます。	—

フラッシュが発光しない		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.67
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.67
ムービーが設定されている	ムービーではフラッシュはご使用になれません。	P.62
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。パノラマ撮影を解除してください。	P.76

液晶モニタが見にくい		
原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの画像に縦スジが入る	晴天下のような明るい被写体に向けると、画像に縦スジが入ることがあります。故障ではありません。	P.56
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「モニタ調整」で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.111
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

液晶モニタ上で再生できない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	レンズバリアを閉じた状態で を押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.31
撮影モードになっている	をすばやく 2 回押すか、レンズバリアを閉じてから を押して、再生モードに切り替えてください。	P.31、89
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.122
テレビに接続している	ビデオケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.94

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.35
電池が少なくなってきた	電池が少なくなると、日時設定が解除されたり遅れたりします。充電された電池に入れかえて、日時を設定してください。	P.23、35
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で約1日放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.35

設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
原因	こうしましょう	参照ページ
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定タブ」にある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.106
電源を切ってすぐに電池を抜いた	カメラの電源を切ってすぐに電池を抜くと、変更した設定値は初期設定に戻ることがあります。数秒待ってから電池を抜いてください。	—

●画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.67
被写体が明るすぎた	露出補正をマイナス（－）側に設定するか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.84

撮影した画像が暗い		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.37
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲内より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.67
フラッシュが「発光禁止」になっていた	フラッシュを「発光禁止」以外に設定してください。	P.67
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.67、74
雪景色などの明るい被写体を撮ると、実際より暗く見える画像が撮れる	露出補正を＋側に補正してください。	P.84

室内で撮影した画像の色がおかしい		
原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合ったホワイトバランスを設定してください。	P.86
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.67
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.86

画像の一部が欠けてしまった		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.37

撮影距離が近かった	液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.38

ピントが合っていない		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。 また、シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。夜景撮影や暗い状況でフラッシュを「発光禁止」にして撮影するときは三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.37
被写体が近すぎる	被写体との距離が50cm以内のときは、マクロモードに設定します。20cmまでは近づけます。	P.70
レンズに水滴がついていた またはレンズが汚れていた	レンズの水滴や汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	—
緑ランプが点灯しても、正しくピントの合っていないことがある	被写体と同じ距離のものでフォーカスロックしたあと、構図を決めてください。	P.59

電池の寿命が短い		
原因	こうしましょう	参照ページ
寒い中で使用している	低温下では電池の性能が低下します。カメラを防寒具や衣類の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。	—
電池残量が正しく表示されない	カメラの消費電力が大きく変化する際、電池残量の警告表示なしで電源がオフする場合があります。新しい電池と交換してください。	P.23

メニュー一覧

●撮影メニュー（P ／ ／ ／ ／ ／ ）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	測光	ESP／スポット	P.74
		ドライブ	単写／連写	P.75
		デジタルズーム※	オフ／オン	P.65
		パノラマ		P.76
		合成ツーショット		P.78
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.108
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.106
			日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.33
		ビープ音	オフ／オン	P.113
		レックビュー	オフ／オン	P.112
		ピクセルマッピング		P.114
		モニタ調整		P.111
		日時設定		P.35
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.115
画質モード			SHQ ／HQ／SQ1／SQ2	P.80
露出補正			－2.0~＋2.0（1/3 EVステップ）	P.84
ホワイトバランス			オート、プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯）	P.86

※ セルフポートレート（ ）モードでは選択できません。

●撮影メニュー（）

トップメニュー
タブ
項目
選択肢
参照頁
モードメニュー
撮　影
測光
ESP／スポット
P.74
デジタルズーム
オフ／オン
P.65
カード
カードセットアップ
フォーマット／中止
P.108
設　定
設定クリア
オフ／オン
P.106
日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL
P.33
ビープ音
オフ／オン
P.113
ピクセルマッピング
P.114
モニタ調整
P.111
日時設定
P.35
ビデオ出力
NTSC／PAL
P.115
画質モード
HQ／SQ
P.80
露出補正
−2.0~＋2.0（1/3 EVステップ）
P.84
ホワイトバランス
オート、プリセット（晴天、曇天、電球、蛍光灯）
P.86

●再生メニュー（静止画）

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オフ／オン	P.98
		回転表示	0°／＋90 °／－90°	P.95
		プリント予約	1コマ予約／全コマ予約	P.116
	編　集	モノクロ作成	新規作成／中止	P.101
		セピア作成	新規作成／中止	P.102
		リサイズ	640×480／320×240／中止	P.102
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.100、108
	設　定	設定クリア	オフ／オン	P.106
		(言語アイコン)	日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL	P.33
		ビープ音	オフ／オン	P.113
		モニタ調整		P.111
		日時設定		P.35
		ビデオ出力	NTSC／PAL	P.115
		インデックス表示	4／9／16	P.104
自動再生				P.93
情報表示				P.110
1コマ消去			消去／中止	P.99

●再生メニュー（ムービー）

トップメニュー
タブ
項目
選択肢
参照頁
モードメニュー
再　生
プロテクト
オフ／オン
P.98
カード
カードセットアップ
全コマ消去／フォーマット
P.100、108
設　定
設定クリア
オフ／オン
P.106
日本語／ENGLISH／FRANÇAIS／DEUTSCH／ESPAÑOL
P.33
ビープ音
オフ／オン
P.113
モニタ調整
P.111
日時設定
P.35
ビデオ出力
NTSC／PAL
P.115
インデックス表示
4／9／16
P.104
ムービープレイ
ムービー再生
再生／コマ送り／中止
P.96
インデックス作成
新規作成／中止
P.104
情報表示
P.110
1コマ消去
消去／中止
P.99

初期設定一覧

●撮影モード

フラッシュ	オート
セルフタイマー	オフ
撮影モード	Pオート
ズーム	Wide
LCD（液晶モニタ）	オン
測光	ESP
画質モード	HQ
露出補正	±0
ドライブ	単写
デジタルズーム	オフ
パノラマ撮影	オフ
合成ツーショット	オフ
ホワイトバランス	オート
レックビュー	オン
マクロ	オフ

●再生モード

自動再生	オフ
プリント予約	オフ
情報表示	オフ
回転表示	0°
インデックス表示	9

●その他

ビープ音	オン
設定クリア	オン
	日本語
モニタ調整	±0
日時設定	2003.01.01
ビデオ出力	NTSC

撮影モード別の設定可能な機能

撮影モード／機能	Pオート	ポートレート	記念写真	風景	夜景	セルフポートレート	ムービー
マクロ	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○
リモコン	○	○	○	○	○	○	○
ズーム	○	○	○	○	○	×	○※
バーチャルダイヤル	○	○	○	○	○	○	○
測光	○	○	○	○	○	×	○
画質モード	○	○	○	○	○	○	○
露出補正	○	○	○	○	○	○	○
ドライブ	○	○	○	○	○	○	×
デジタルズーム	○	○	○	○	○	×	○
パノラマ	○	○	○	○	○	○	×
合成ツーショット	○	○	○	○	○	○	×
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	○	○
カードセットアップ	○	○	○	○	○	○	○
設定クリア	○	○	○	○	○	○	○
(言語アイコン)	○	○	○	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○	○	○	○
レックビュー	○	○	○	○	○	○	×
ピクセルマッピング	○	○	○	○	○	○	○
モニタ設定	○	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○	○
ビデオ出力	○	○	○	○	○	○	○

※ 撮影中は光学ズームの倍率は変更できません。

カメラのお手入れと保管

●使用後のカメラの取り扱い

レンズバリアを閉じて電源を切ってください。

●カメラのお手入れ

1 レンズバリアを閉じてカメラの電源を切ります。

液晶モニタが消灯していることを確認してください。

2 電池を取り出します（☞ P.24）。（AC アダプタをお使いの場合は、まず接続コードプラグをカメラから抜き、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。）

3 カメラの外側

→ 柔らかい布でやさしく拭いてください。汚れがひどい場合は、うすめた低刺激のせっけん水に布を浸して、硬く絞ってから、汚れを拭き取ります。そのあと、乾いた布でよく拭きます。海辺でカメラを使用した場合は、真水に浸した布を硬く絞って拭き取ります。

液晶モニタとファインダ

→ 柔らかい布でやさしく拭きます。

レンズ

→ レンズブロワー（市販）でほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパーでやさしく拭きます。

カード

→ 乾いた柔らかい布で拭きます。

●カメラの保管

- カメラを長期間使用しないときは、バッテリーを取り外してから風通しがよく涼しい乾燥した場所に保管してください。
- 保管期間中でも、ときどきバッテリーを入れてカメラの動作を確かめてください。

注意

- 絶対にベンジンやアルコールなどの強い溶剤や化学雑巾を使わないでください。
- お手入れをする前に、必ず電池やACアダプタをカメラから取り外してください。
- レンズを汚れたままにしておくと、かびが生えることがあります。

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社で保有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅配便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式　：デジタルカメラ（記録・再生型）

記録方式

静止画　：デジタル記録、JPEG（DCF準拠）、Exif 2.2対応、DPOF対応、PRINT Image Matching II対応

動画　：QuickTime Motion JPEGに準拠

記録媒体　：xDピクチャーカード（16~256MB）

記録コマ数（16MB使用時）：

画像サイズ（ピクセル）	画質モード／カード記録可能枚数			
	μ-20 DIGITAL		μ-10 DIGITAL	
2272×1704	SHQ	5	–	–
	HQ	16		
2048×1536	SQ1	20	SHQ	6
			HQ	20
1600×1200	SQ2	24	SQ1	24
1280×960		38	SQ2	38
1024×768		58		58
640×480		99		99

画質モード μ-20 DIGITAL／μ-10 DIGITAL	画像サイズ（コマ／秒）	一度に連続して撮影できる時間（秒）
HQ	320 x 240（15コマ／秒）	16
SQ	160 x 120（15コマ／秒）	70

カメラ部有効画素数：μ-20 DIGITAL（400 万画素）、μ-10 DIGITAL（320 万画素）

レンズ　：オリンパスレンズ5.8～17.4mm（35mmフィルム換算35～105mm相当）、F3.1～5.2

測光方式　：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光

シャッター　：1/2～1/1000秒（夜景モードでは最大4秒）

撮影範囲　：0.5m～∞（通常）
0.2m～∞（マクロ撮影時）

ファインダ　：光学実像式ファインダ

液晶モニタ	：1.5型（インチ）TFTカラー液晶、134,000画素
コネクタ	：DC入力端子、USB端子（mini-B）、ビデオ出力端子
自動カレンダー機能	：2000～2099年の範囲で自動修正
生活防水	種類：JIS保護等級4相当（当社試験方法による） 意味：いかなる方向からの水の飛まつを受けても有害な影響のないもの。
使用環境	
温度	：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
湿度	：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源	：専用リチウムイオン充電池または専用ACアダプタ
大きさ	：幅99 mm×高さ56mm×厚さ33.5 mm（突起部を除く）
重さ	：165g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

用語解説

画素数
画像を形成する最小単位の点の数。画素数が多いほど、サイズの大きな画像を作るのに適しています。

画像サイズ
画像を構成する点（ピクセル）の数で表した画像の大きさのこと。例えば、640×480で撮影した画像は、パソコンのモニタの設定が640×480のときではモニタ全体に表示されますが、1024×768ではモニタの一部分にだけ表示されます。

スリープモード（待機状態）
電池を節約するためのモード。電源を入れたままカメラを一定時間放置すると、電池を節約するためにカメラは動作を停止します。シャッターボタンや十字ボタンなどの操作をすると、すぐにカメラは動作します。

デジタルESP測光（electro selective pattern）
CCD出力を分割測光によって、周辺と中心部を個別に測光し、演算して露出を決める測光方法。

露出
画像が写るために得る光の量。シャッター速度で時間を、絞りでレンズを通して入ってくる光の量を調節して、露出を決めます。

●アルファベット順

AE（automatic exposure）
自動露出。カメラに内蔵された露出計で自動的に決める方式。

CCD（charge coupled device）
レンズを通して入ってきた光りを受けて、電気信号に変換する素子。CCDで受けた光をRGBの信号に変換して、一つの画像を作り出します。

DCF（design rule for camera file system）
電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された、画像ファイルに関する規格。

DPOF（digital print order format）
デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録するフォーマット。画像を保存したカードにプリントしたい画像の指定や、枚数の指定情報を記録することで、DPOF対応の写真店やプリンタでプリントアウトを簡単に行うことができます。

EV（exposure value）
露出値。絞り値がF1、シャッター速度が1秒のときの光量をEV0と規定し、それより絞りを一段絞ったり、シャッター速度を一段早くするごとに、数値は1ずつ多くなります。EVは明るさとISO感度でも表せます。

JPEG（joint photographic experts group）
カラー静止画の圧縮方式。このカメラで撮影した写真（画像）は、画質をSHQ／HQ／SQに設定すると、JPEG形式でカードに記録されます。パソコンに読み込めば、グラフィックス用のアプリケーションソフトで加工したり、インターネット閲覧ソフト（ブラウザ）で見ることができます。

NTSC／PAL（National Television Systems Committee／Phase Alternating Line）
テレビの放送方式。NTSCは主に日本、北米、韓国で使用され、PALは主にヨーロッパ諸国や中国で使用されています。

TFT（thin-film transistor）
カラー液晶モニタ薄膜技術によるカラー液晶モニタ。

索引

オリンパス株式会社

〒163-0914　東京都新宿区西新宿2の3の1 新宿モノリス

● ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS対応の状況、Q&Aなどの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（**http://www.olympus.co.jp/**）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ」へ進み、ご利用ください。

● 電話等でのご相談窓口
カスタマーサポートセンター

フリーダイヤル

 0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX　0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　平日　　　　9　：30～21：00
土・日・祝日　10：00～18：00
（年末年始、システムメンテナンス日を除く）

● 修理に関するお問い合わせ、修理品ご送付先

TEL 0266-26-0330　　FAX 0266-26-2011

〒394-0083　長野県岡谷市長地柴宮3の15の1
オリンパス岡谷修理センター
営業時間9:00～17:00（土・日・祝日及び弊社休日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒101-0052	千代田区神田小川町 1 の 3 の 1　小川町三井ビル（オリンパスプラザ内）	Tel.03（3292）3403
札　幌	〒060-0034	札幌市中央区北 4 条東 1 の 2 の 3　札幌フコク生命ビル	Tel.011（231）2320
仙　台	〒981-3133	仙台市泉区泉中央 1 の 13 の 4　泉エクセルビル	Tel.022（218）8421
名古屋	〒460-0003	名古屋市中区錦 2 の 19 の 25　日本生命広小路ビル	Tel.052（201）9571
大　阪	〒542-0081	大阪市中央区南船場 2 の 12 の 26　オリンパス大阪センター	Tel.06（6252）6991
広　島	〒730-0013	広島市中区八丁堀 16 の 11　日本生命広島第 2 ビル	Tel.082（228）3821
福　岡	〒810-0004	福岡市中央区渡辺通 3 の 6 の 11　福岡フコク生命ビル	Tel.092（761）4466

※ 土・日曜、祝日および年末年始・夏期休暇は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

©2003 OLYMPUS CORPORATION　VT419603